

調査主体：一般社団法人 日本補聴器工業会
後援：公益財団法人 テクノエイド協会
協力：EHIMA（欧州補聴器工業会）

JapanTrak 2015 調査報告

1. はじめに
2. 市場概要
3. 補聴器所有者に関する分析
4. 補聴器非所有難聴者に関する分析
5. 日本の市場に特化した質問項目

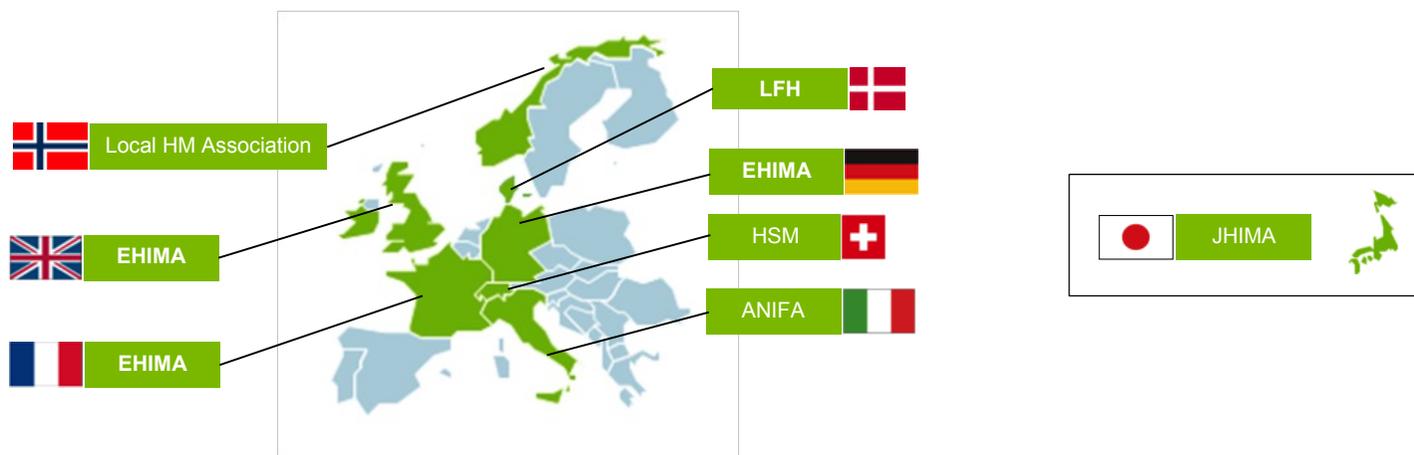
JapanTrak (ジャパントラック) 2015 の目的

一般社団法人日本補聴器工業会は公益財団法人テクノエイド協会の後援とEHIMA(欧州補聴器工業会)の協力を得て、我が国において一般の人々が聞こえの不自由さ(難聴)や補聴器についてどのように考えているか、補聴器の使用状況はどうなっているかなどについて大規模な実態調査を前回の調査(2012年)と同様に実施した。

JapanTrak 2015の目的は、我が国における聞こえと補聴器を取り巻く現在の諸問題を抽出し、欧米諸国の一部同様なデータとの比較も行ないつつ、もって全難聴者の生活の質(QOL)の向上に寄与する対策を検討し提案することにある。

1. はじめに

- ジャパントラック 2015 (JapanTrak 2015) はアノバム社(スイス・チューリッヒ市)が一般社団法人日本補聴器工業会の代理として設計、実施した。
- ジャパントラック2015のサンプルサイズ:
 - 代表サンプル (ステップ 1): 基数=14,316 人
 - 難聴者 (ステップ 2): 基数=1,306人
 - 補聴器非所有難聴者(HL): 基数= 890 人
 - 補聴器所有者(HA): 基数= 416人
- ジャパントラック 2015 はユーロトラック2015の日本版である:



2. 市場概要

- 自己申告による難聴者率
 - 全体: **11.3 %**, 18歳以上: **13.1%** (2012: 10.9%, 18歳以上: 12.8%)
 - 両耳難聴: 補聴器所有者: **83%**, 補聴器非所有者: **60%**
 - 聴力検査: **51%** (2012: 49%) が過去5年間に聴力検査を受け、ほとんどの検査は耳鼻科医あるいはかかりつけ医師が行った。
- 補聴器所有率(普及率)
 - 全体: **13.5%** (2012: 14.1%)
 - 18歳以上: **12.8%** (2012: 14.1%)
 - 補聴器所有者の**46%**が両耳装用であった。
- 補聴器所有までの道のり
 - 難聴者の**40%**が難聴について耳鼻科医師あるいはかかりつけ医師に相談した。
 - 耳鼻科医師あるいはかかりつけ医師から補聴器を勧められたのは**32%**であった(離脱割合=**68%** / 2012: 67%)
 - かかりつけ医師への相談で**17%** が補聴器販売店を紹介された。**18%** が耳鼻科医師を紹介された。
 - **51%** が特に行動する必要はないと言われた。
 - 耳鼻科医師への相談で**16%** が補聴器販売店を紹介された。**70%** が特に行動する必要はないと言われた。
- 補聴器使用による潜在的な社会的費用の削減
 - 補聴器は仕事に良い影響をもたらすと考えられている。
 - 難聴者が補聴器を使用すると、睡眠の質が改善するようである。

3. 補聴器所有者に関する分析

- 補聴器の所有、利用、アクセサリーについて
 - 全補聴器所有者の15% (2012: 12%) が補聴器購入の助成を受けた。
 - 現在所有している補聴器の42% が最近2年以内に購入されている。
 - 現在所有している補聴器の平均所有年数は 4.1 年 (2012: 3.5 年) である。
 - 補聴器を買い替えるまで使用期間の中央値は 5 年 (2012: 4 年) である。
 - 平均して1日 6.8 時間 (2012: 5.7 時間) 補聴器を装着している。
 - 現在の補聴器を所有している人の48%は自分の補聴器のブランド名を知っている。48%が新しい補聴器を買う際にはできれば同じブランドを選びたいとしている。(41% はこだわりのない)
 - 最も所有されているアクセサリーはTV Boxで、補聴器所有者の11%が所有している。33% はTV Boxを聞いたことはあるが所有はしていない。
- 聞こえが重要となる状況、補聴器の満足度について
 - 補聴器所有者の60%が補聴器は期待していた通り、あるいは期待していた以上に役に立っていると回答。40% が期待以下であったと回答している。
 - 補聴器の全体的な満足度は39% (2012: 36%) であった。
 - 1日当たりの装着時間が長いほど満足度も高い。
 - 電話での会話と家での家族との会話が、最も聞こえが重要になる。
- 補聴器から得られる良い影響
 - 様々な面で補聴器が大変に良い影響を与えている – 特に、安心感、会話のしやすさ、自分自身の気持ち。
 - 補聴器所有者の84%が、補聴器により何がしかは生活の質(QOL)が 向上していると述べている。

4. 補聴器非所有難聴者に関する分析

- 補聴器を所有/使用しない理由
 - 補聴器非所有難聴者の内わずか9% (2012: 6%) が政府からの補聴器の受給制度を知っている。
 - 補聴器を使用しない主な理由: わずらわしい、補聴器を使用しても元の聞こえには戻らない、難聴がそれほどひどくない。
 - この場合わずらわしいとは: “日々の生活にまだ必要でない”、“耳の中の異物感”、“きつい”、“痛い”、“大きすぎる”。
 - 補聴器所有者の7% が補聴器を全く使用していない(0時間)。23%が1日1時間以下の使用である(0-1 時間)。

- 社会からの拒絶感、購入の意向、購入のきっかけ
 - 補聴器所有者の68%が補聴器のせいで人からからかわれたり、仲間外れにされたりすることはないと考えている。 補
 - 補聴器を所有していない難聴者のほうがからかわれたり、仲間外れにされたりすることがあり得るようである。 補
 - 補聴器を入手するのに最も影響を与える要因は、難聴の悪化、耳鼻科医師、配偶者/子供、補聴器専門店である。 補聴器
 - 補聴器非所有者の6% (2012: 4%)が1年以内に補聴器を入手するつもりである。

- 補聴器専門店、医師(耳鼻科医等)、眼鏡店が最も重要な情報源であり、補聴器購入に至る主たる ゲートである。次に影響を与えるのはインターネットである。

調査項目

ジャパントラック 2015の新しいトピックスは赤文字で表示

1. はじめに

- ジャパントラック2015の調査関係者
- アンケート回答者の募集方法及び難聴者の抽出

2. 市場概要

- 難聴者比率と補聴器所有率
- 聴力検査の有無と聴力検査を受けた場所
- 補聴器所有までの道のり: 情報源と離脱する割合
- 補聴器使用による潜在的な社会的費用の削減: 仕事上での優位性、うつ病、認知症、睡眠の質

3. 補聴器所有者に関する分析

- 補聴器の所有、補聴器入手以前の難聴の自覚、補聴器の寿命と使用状況
- アクセサリーの認知度と使用状況
- 補聴器の満足度と影響因子
- 聞こえが重要となる状況
- 補聴器から得られる良い影響、生活の質(QOL)の向上

4. 補聴器非所有難聴者に関する分析

- 補聴器を使用しない理由、補聴器はわずらわしいと考える理由
- 難聴による社会からの拒絶感と補聴器の社会的受容度の比較
- 購入の意向、購入に至る重要なきっかけ

5. 付録

- 人口動態: 補聴器使用率と人口



1. はじめに



ジャパントラック2015の調査関係者

調査関係者

- ジャパントラックはユーロトラックの日本版である。
- ジャパントラックプロジェクトの主体は一般社団法人日本補聴器工業会 (JHIMA) であるが、公益財団法人テクノエイド協会の支援を得ている。
- アノバム社 (スイス・チューリッヒ市) がジャパントラックのコンセプトを開発し、アンケートを作成し、調査会社と共同で調査を実施した。最終的にアノバム社が結果の分析と資料の作成を行った。
- 欧州補聴器工業会 (EHIMA) は調査アンケートの実施とその内容を承認した。
- アノバム社と日本補聴器工業会はユーロトラックの調査アンケート内容をジャパントラックに採用した。また、アンケートの内容と結果の日本語訳は日本補聴器工業会が担当した。

データの使用について

- 日本補聴器工業会及び会員各社は調査結果のデータ (表、グラフ、レポート) や調査の結論を自社の今後の研究や出版物等に使用出来る。
- 生データはアノバム社が所持することとする。但し、日本補聴器工業会又は会員各社が調査結果のデータ (表、グラフ、レポート) や調査の結論を使用する場合は、当該データの出所を以下の通り明記しなければならない。

“Source: Anovum – JapanTrak 2015”

- 日本補聴器工業会及び会員各社は生データを使ったさらなる分析をアノバム社に有料で依頼することができる。

アンケート回答者の募集方法及び難聴者の抽出

ステップ 1: 選別インタビュー

目的: 難聴者率と補聴器所有率の調査

方法:

1. 全人口を反映する厳格な割り当てサンプルの抽出(年齢・性別のバランス、地域の分散)
2. 4万人を超える調査名簿から選出
3. 選別アンケート: 自己申告による難聴の程度、補聴器使用状況と人口動態
4. 結果: 人口調査に基づいた 基数: 14,316 人の代表サンプル

ステップ 2: 対象者インタビュー

目的: 補聴器満足度と補聴器非所有者に対する詳細な調査

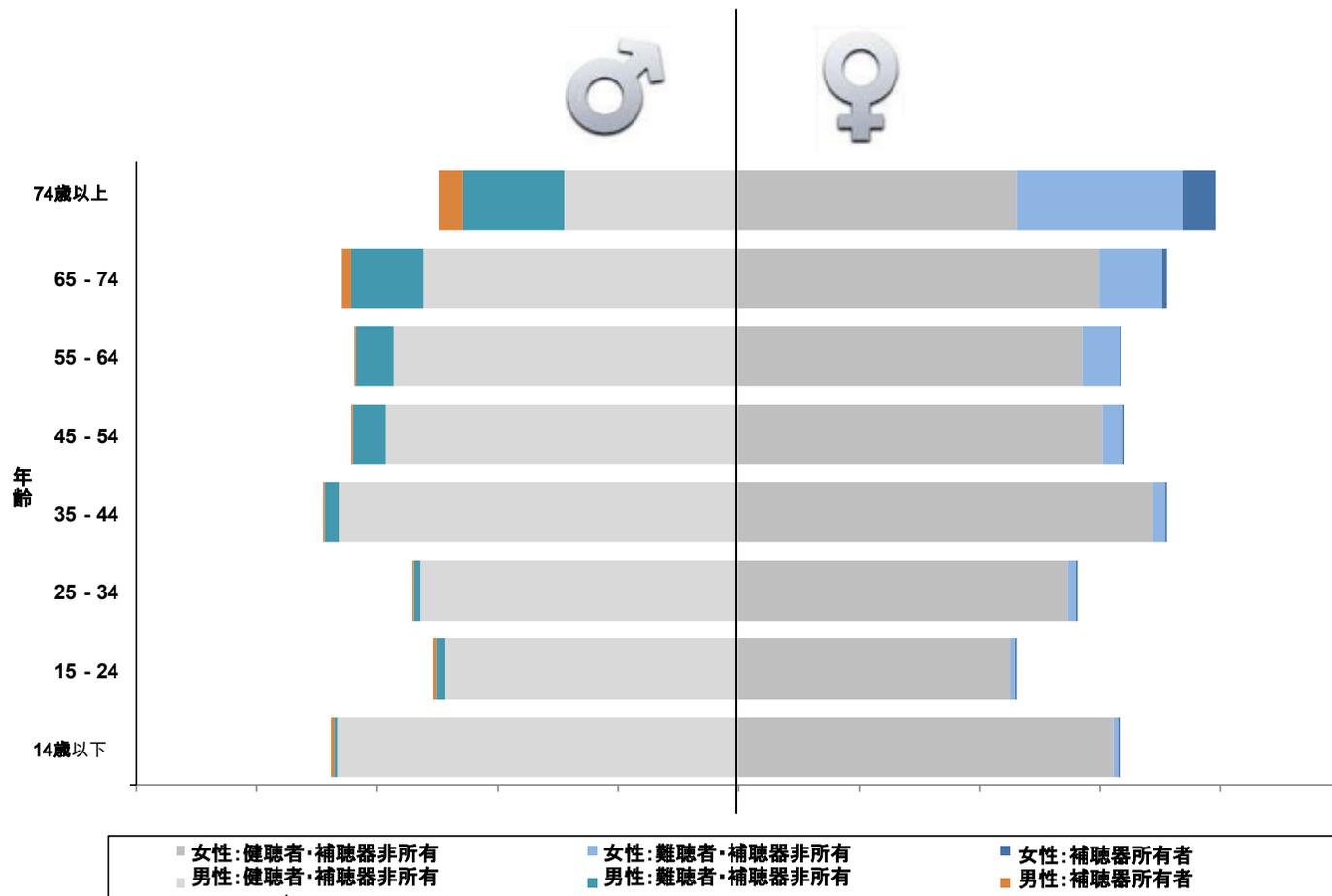
方法:

1. アンケートの主体: 補聴器所有者と補聴器非所有の難聴者
2. 選別インタビュー(ステップ1)の比率に応じたアンケート回答者を抽出
3. 結果サンプル: 基数: 416人の補聴器所有者、基数: 890人の補聴器非所有難聴者

2. 市場概要

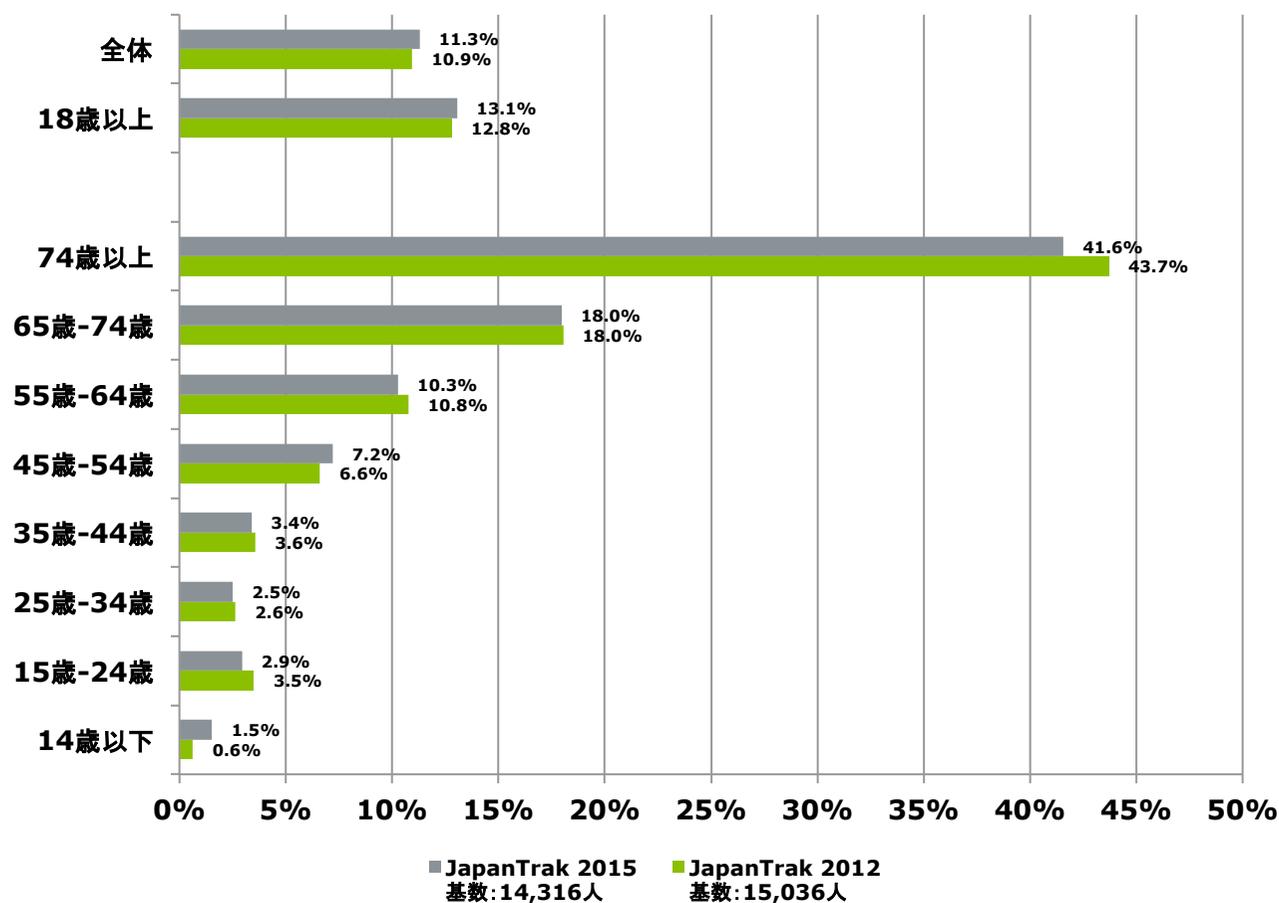
難聴者率と補聴器所有率

性別 / 年齢別の難聴者及び補聴器所有者

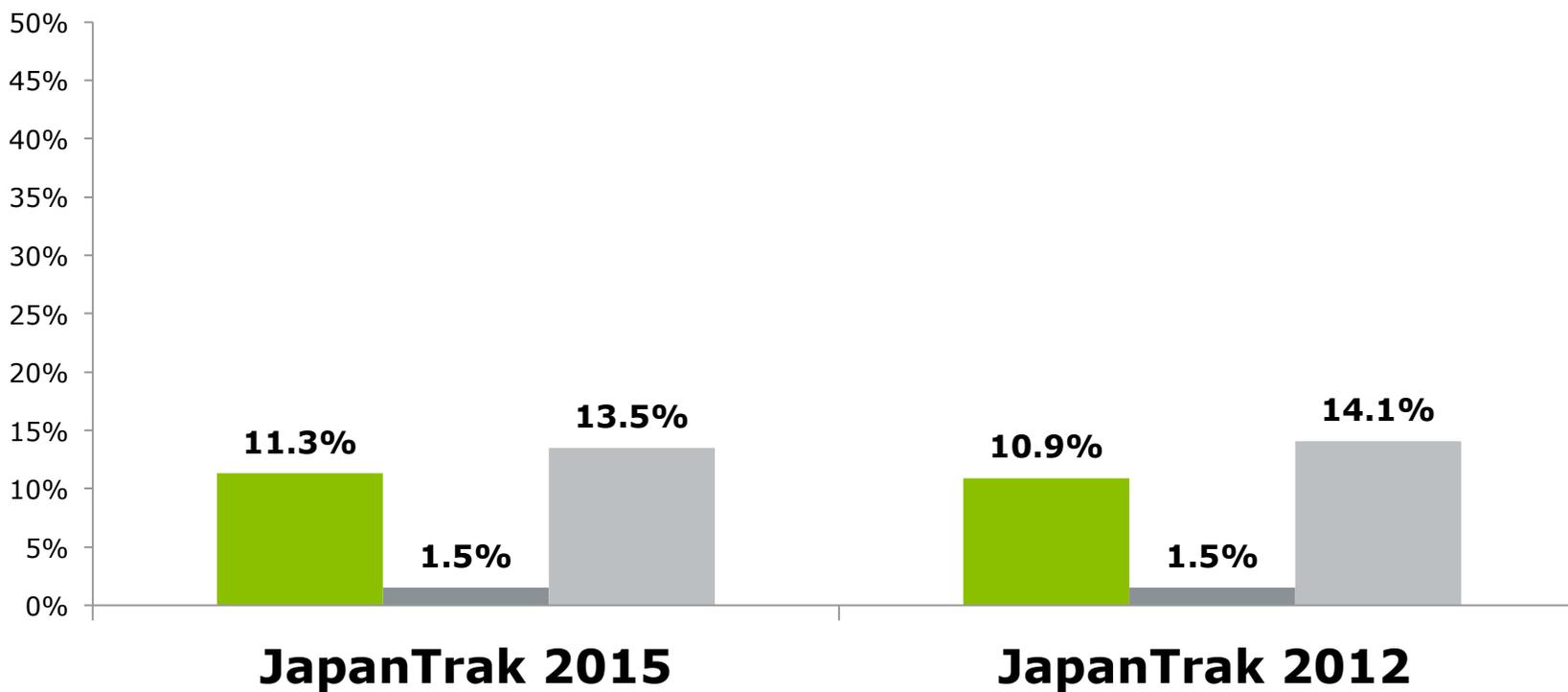


難聴者率 (難聴またはおそらく難聴だと思っている人の割合)

難聴者率 (%)



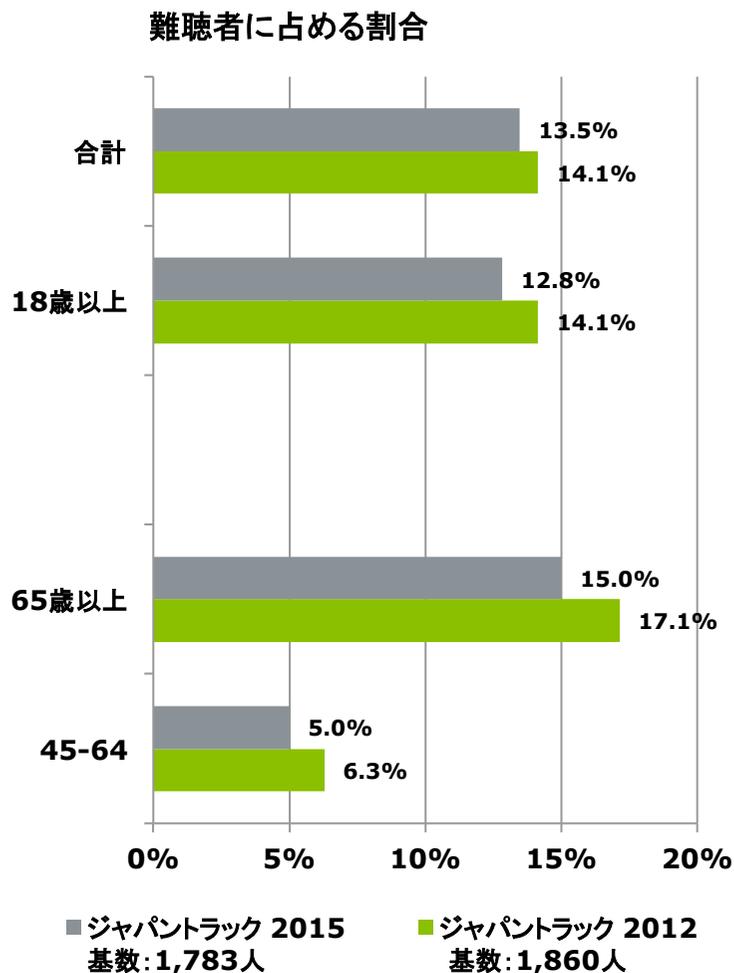
難聴者率と補聴器所有率



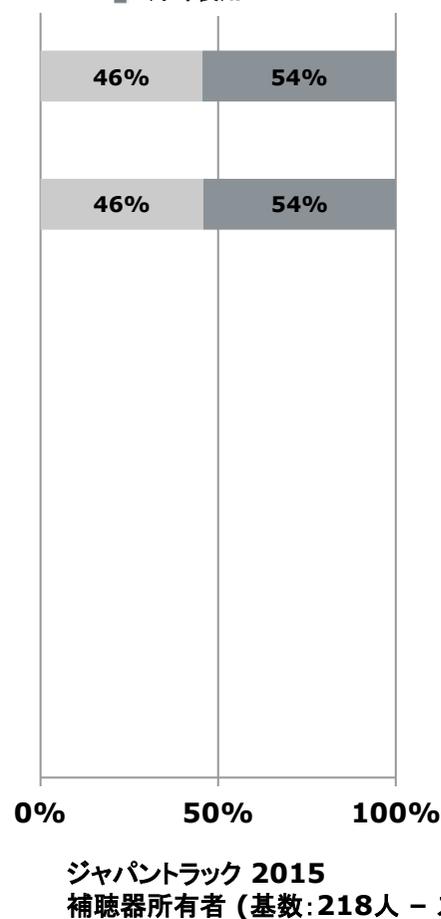
■ 難聴者率 (自己申告) ■ 補聴器所有率 (対全人口) ■ 補聴器所有率 (對自己申告難聴者数)

補聴器所有率： 難聴者の13.5% が補聴器を所有しており, そのうち46%が 両耳装用である

難聴者に占める割合



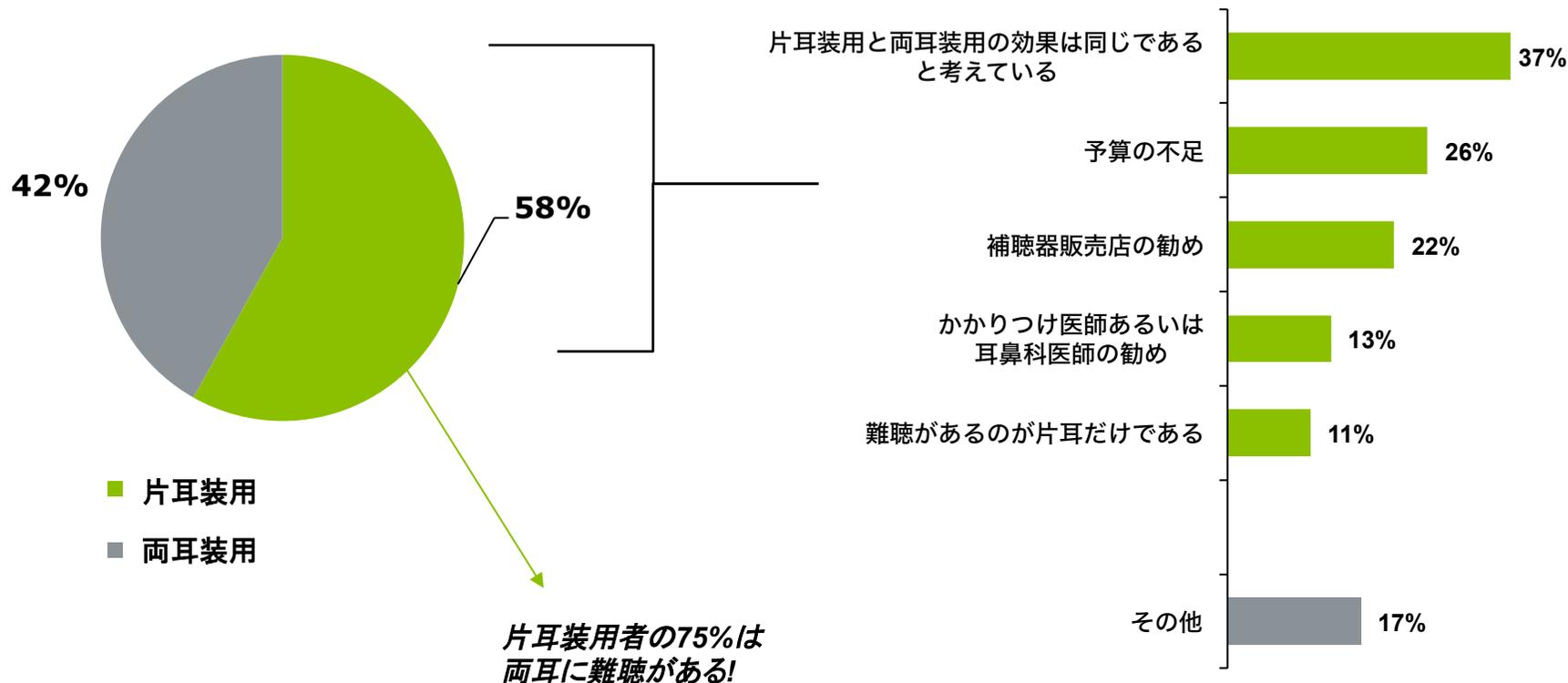
■ 両耳装用
■ 片耳装用



片耳装用者の多くは、片耳装用と両耳装用の効果は同じであると考えている

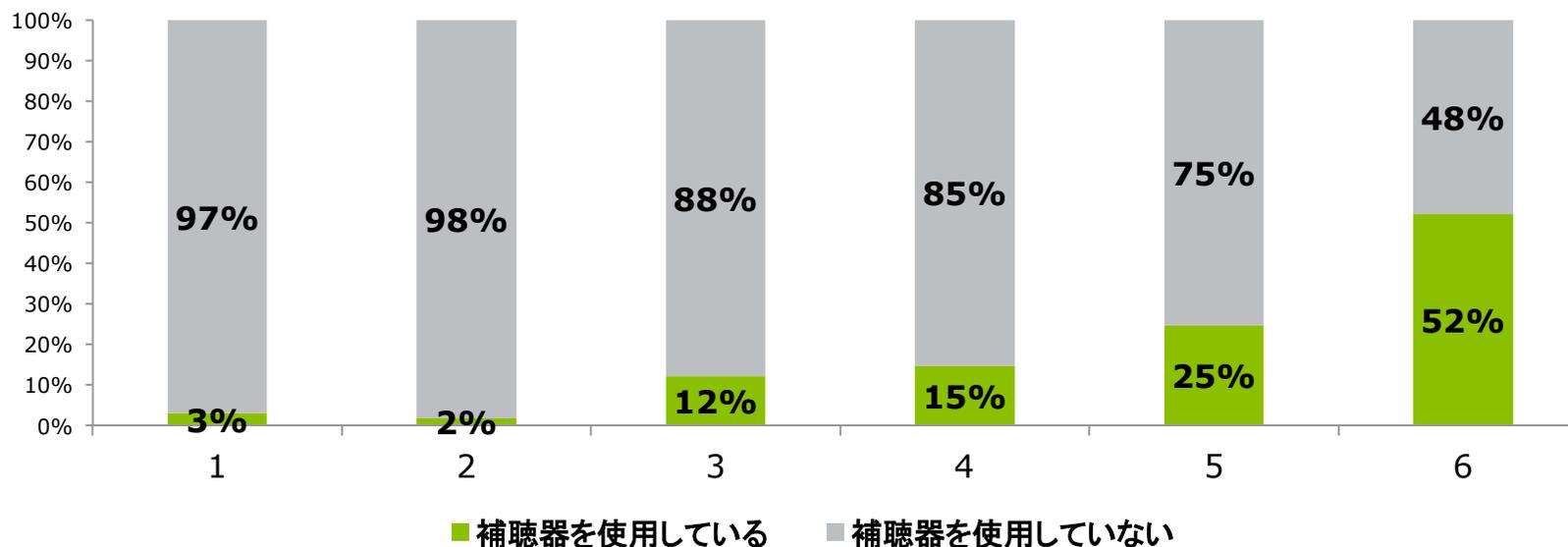
あなたは片耳装用ですか、それとも両耳装用ですか？

あなたが片耳装用である理由はなんですか？



難聴度が高いほど補聴器使用率が高い

難聴度の低いグループ(1,2,3) 難聴度の高いグループ(4,5,6)



難聴度別に分類された6グループ

補聴器非所有者: 基数: 576人
補聴器所有者: 基数: 375人

* 6グループの構成: 因子分析を行い、1つの因子「難聴の程度」を導出した。この因子には以下の質問が含まれている:

- 難聴のある耳の数 (片耳又は両耳)
- 自己申告での難聴度 (軽度から重度)
- 6 APHAB-ECに似たテストのスコア (1から5のスケール)
- 補聴器を使用しない時の騒音下での会話困難度

→回答者を同サイズの6グループに分類した(1グループ=サンプル中の全難聴者数の16.67%)



難聴

難聴耳及び程度: 補聴器所有者と補聴器非所有者の比較

	補聴器非所有者 2015: 基数: 890人 (2012: 基数: 898人)	補聴器所有者 2015: 基数: 416人 (2012: 基数: 450人)	補聴器所有率 (%)
難聴耳 (自己申告)			
片耳難聴	40% (40%)	17% (24%)	8% (11%)
両耳難聴	60% (60%)	83% (76%)	21% (21%)
難聴程度			
軽度	44% (35%)	18% (17%)	7% (8%)
中等度	48% (60%)	54% (56%)	17% (14%)
高度	7% (4%)	23% (24%)	37% (47%)*
重度	1% (2%)	5% (3%)	

人数は実数、その他は比率。

* 高度と重度はサンプル数が少ないため合計数とした。



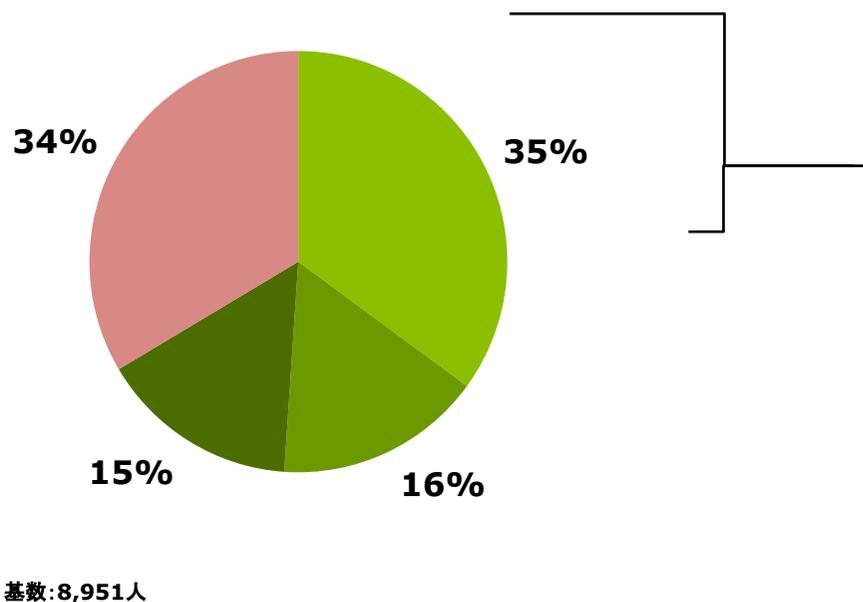
聴力検査の有無と聴力検査を受けた場所



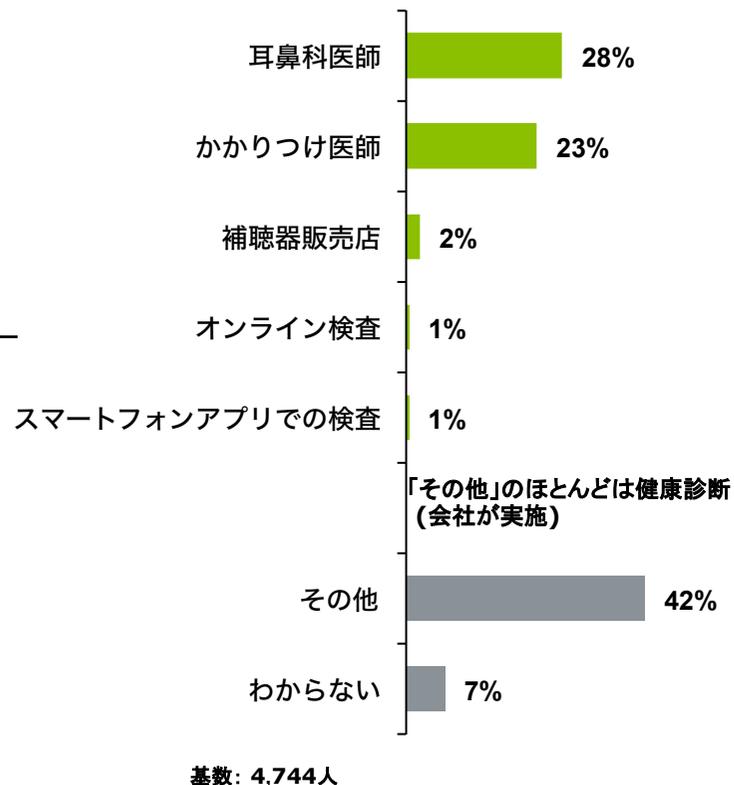
聴力検査: 51% (2012: 49%) が5年以内に聴力検査を受けたことがあり、そのほとんどは健康診断で実施されている。

聴力検査を受けたことはありますか？

- はい、1年以内に受けました。
- はい、5年以内に受けました
- はい、5年以上前に受けました
- いいえ、受けたことはありません



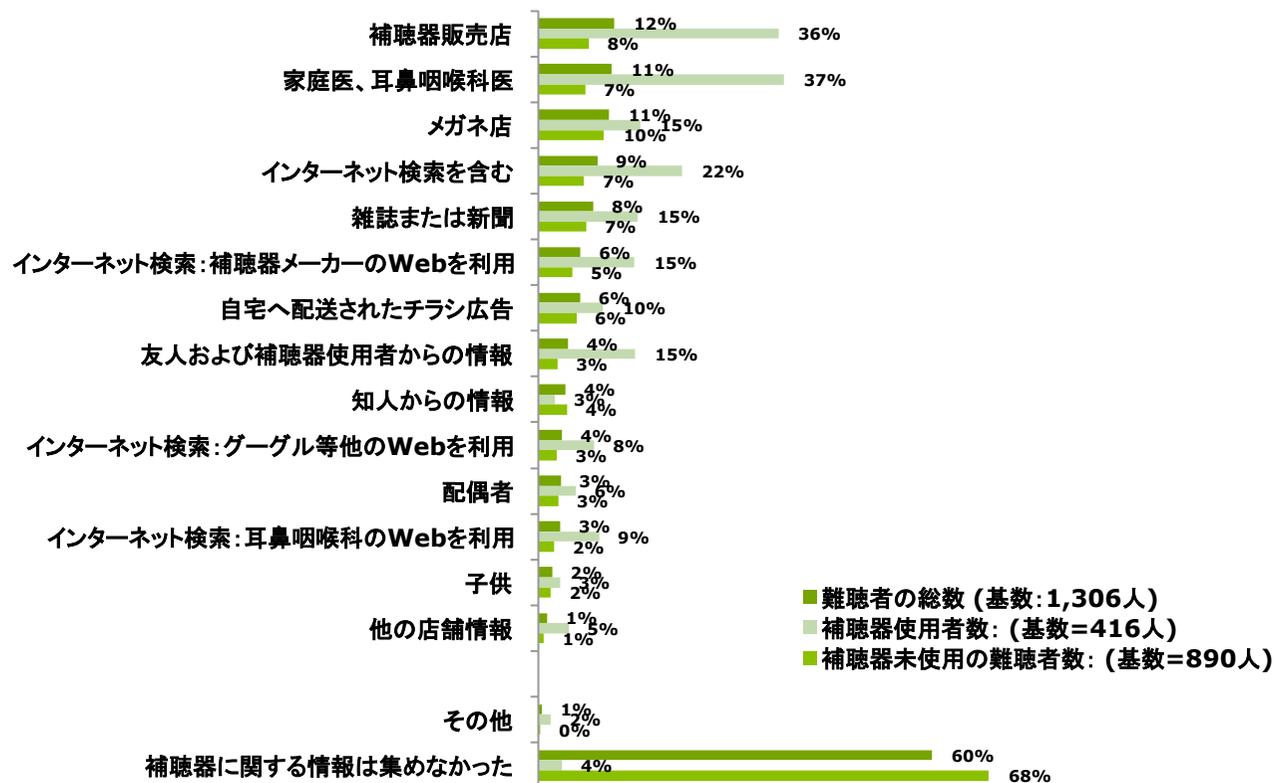
どこで聴力検査を受けましたか？



補聴器所有までの道のり: 離脱する割合と理由

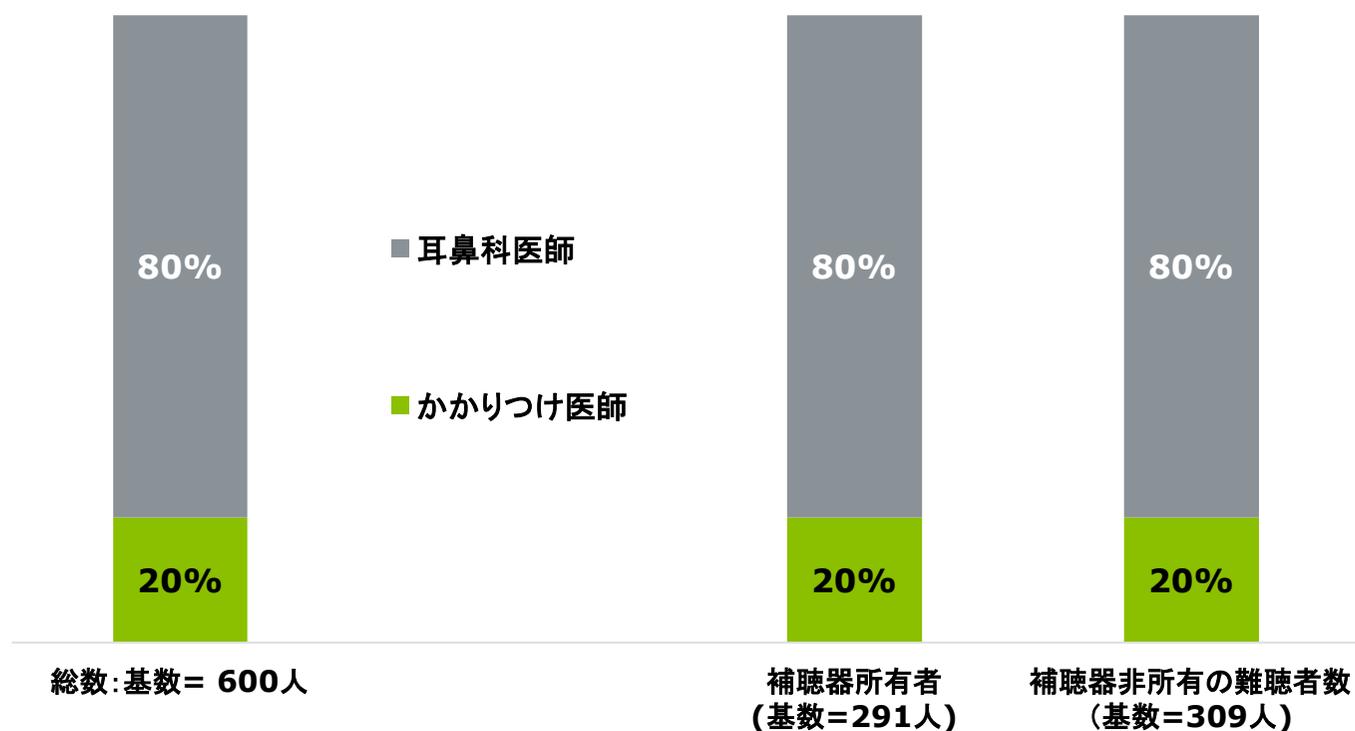
補聴器販売店、医師及びメガネ店が補聴器の情報を得るための最も重要な情報源であり、主たる入口である。

あなたは補聴器に関する情報をどこから得ましたか？
該当する箇所全てに記入してください。

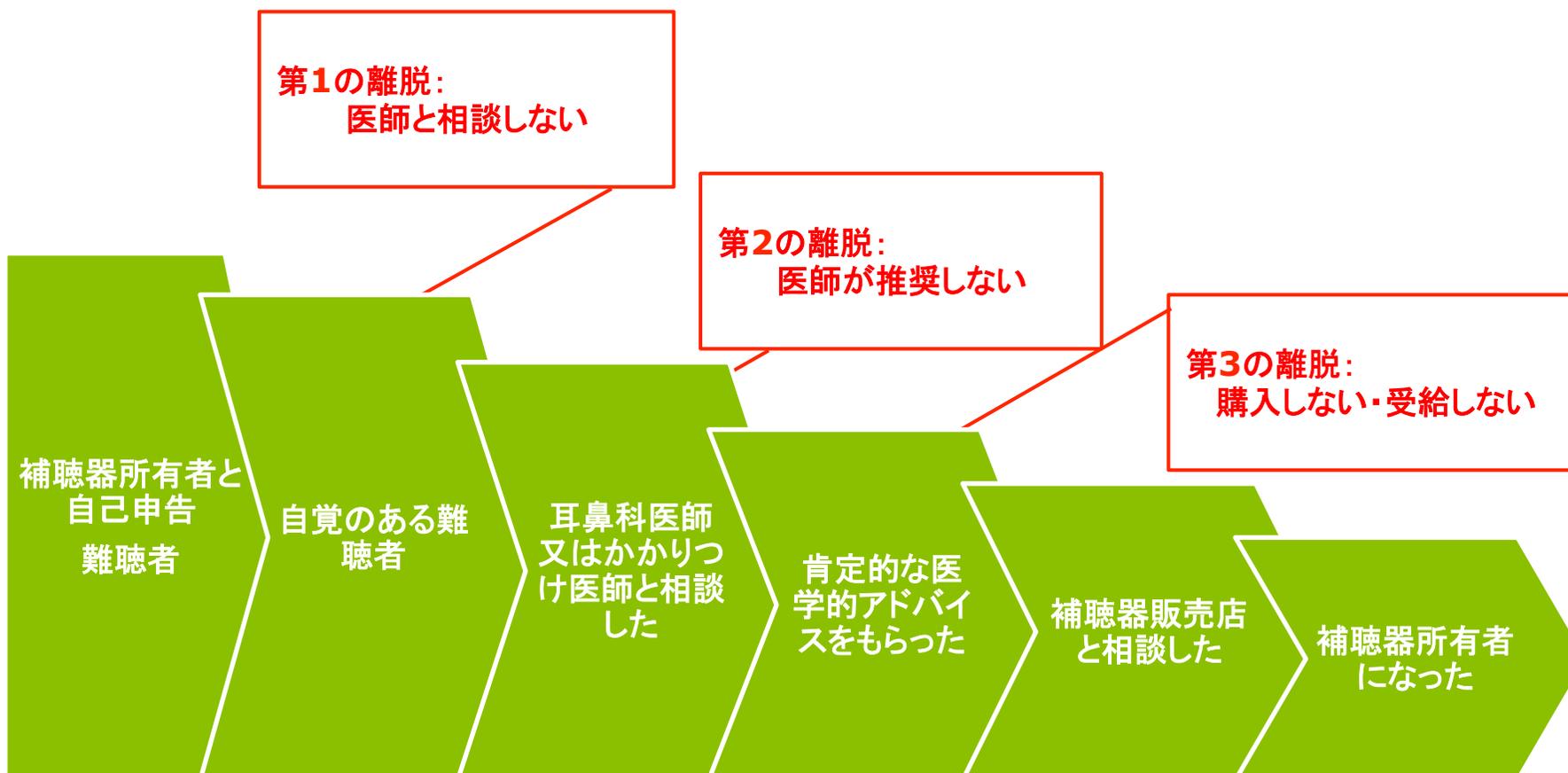


聴力損失について相談したのは耳鼻科医が**80%**、
かかりつけ医師が**20%**であった。

あなたが初めに聴力損失について相談をしたのは耳鼻科医師でしたか、
あるいはかかりつけ医師でしたか？

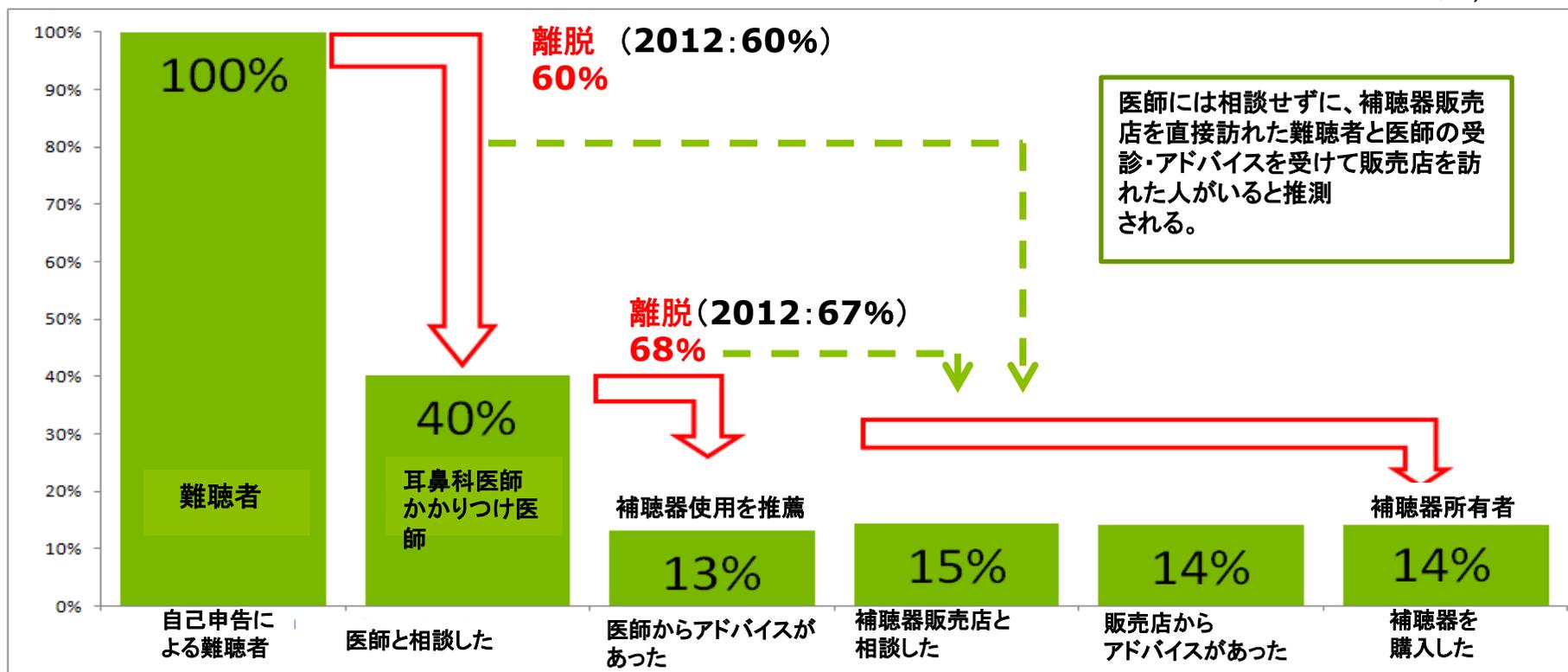


補聴器所有までのルート: 難聴者が補聴器を入手するまでの道のり



補聴器所有までのルート: 全体像

基数: 1,306人



* 6グループの構成: この分析は“難聴レベル”を一つの要因とし、全て同一なものとして行われた。その中には以下の質問も含まれている:

- 障害のある耳の数(片耳又は両耳)
- 申告された聴力損失のレベル(軽度から重度まで)
- 6 APHAB-EC テストのスコア(Scaled 1-5の質問による)
- 補聴器を使用しない時の騒音下での会話困難度

→ 回答者を同数の6グループに分類した(1グループ=サンプル中の全難聴者数の16.67%)

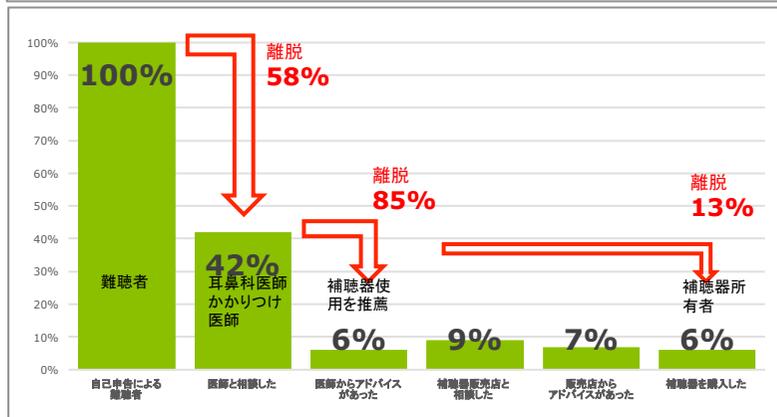
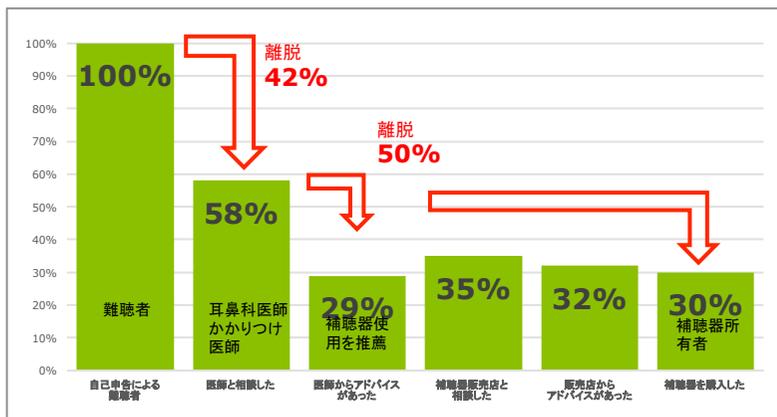
難聴度が低いグループで離脱が非常に多い

難聴度の高い上位50%のグループ*

<アンケートの難聴度の定義>

- 軽度： 静かな場所でも小さな声が聞き取れなかったり、間違えたりする
- 中等度： 日常生活で普通の大きさの音が聞こえなかったり、間違えたりする
- 高度： 耳もとで大きな声を出して貰わないと聞き取れない
- 重度： 耳もとで大きな声を出して貰ってもほとんど聞こえない

難聴度の低い下位50%のグループ*



基準：基数=534人/417人

* 6グループの構成: この分析は“難聴レベル”を一つの要因とし、全て同一なものとして行われた。その中には以下の質問も含まれている:

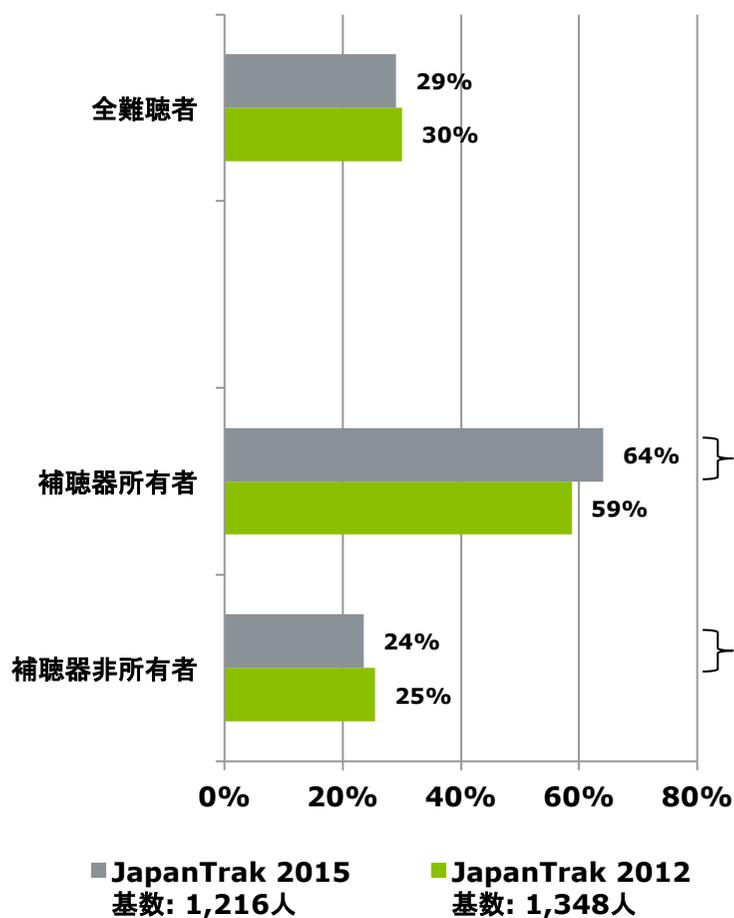
- 障害のある耳の数(片耳又は両耳)
- 申告された聴力損失のレベル(軽度から重度まで)
- 6 APHAB-EC テストのスコア(Scaled 1-5の質問による)
- 補聴器を使用しない時の騒音下での会話困難度

→ 回答者を同数の6グループに分類した(1グループ=サンプル中の全難聴者数の16.67%)

補聴器所有への道のり: かかりつけ医師

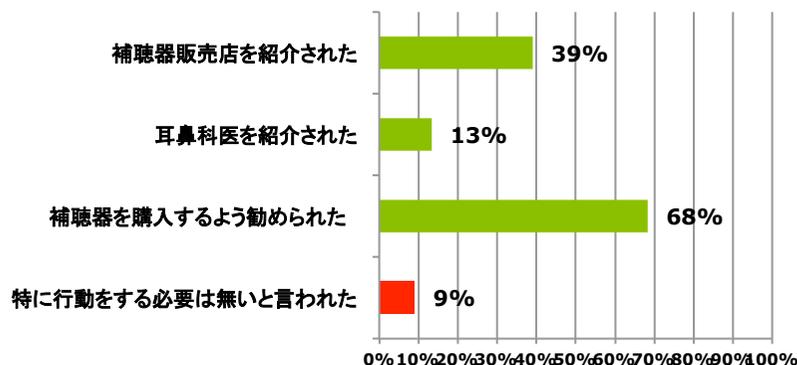
あなたはかかりつけ医師と難聴について相談したことはありますか？

かかりつけ医師と相談した割合

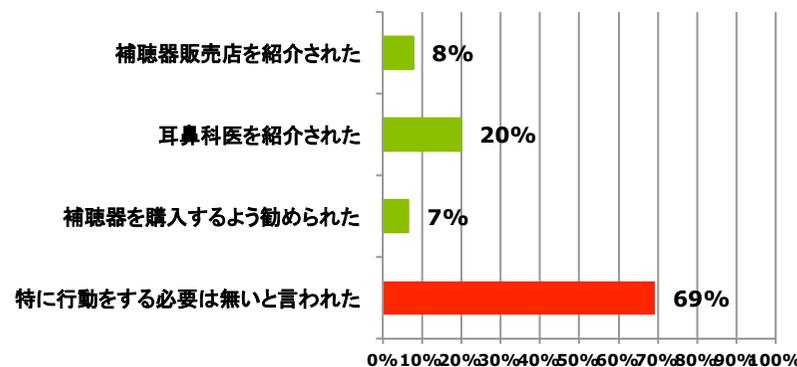


かかりつけ医師の処方又は対応

補聴器所有者数: 240人



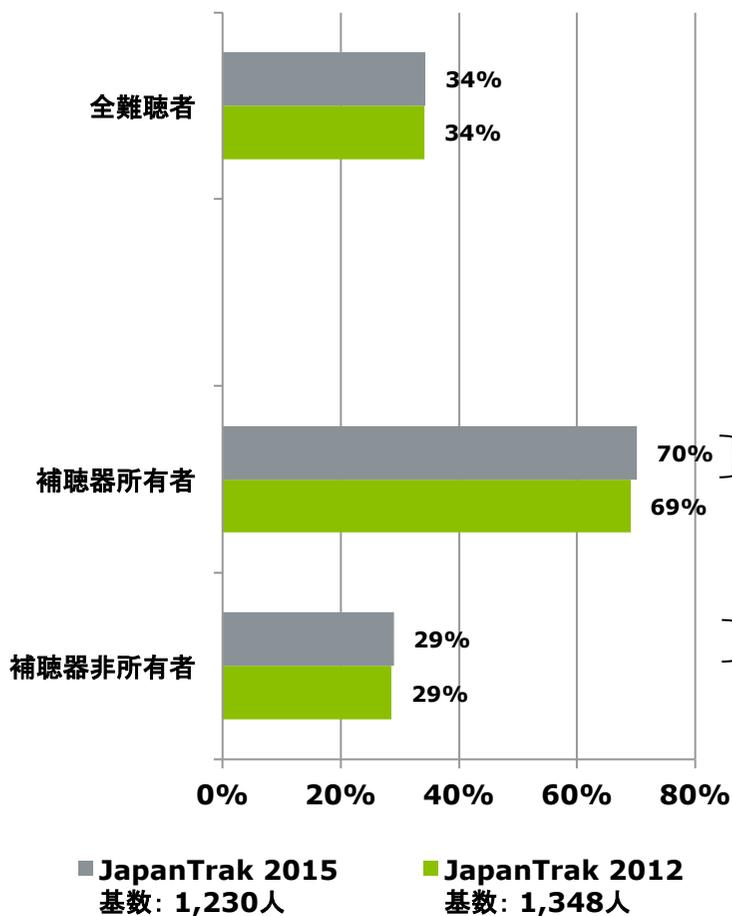
補聴器非所有難聴者数: 219人



補聴器所有への道のり: 耳鼻科医師

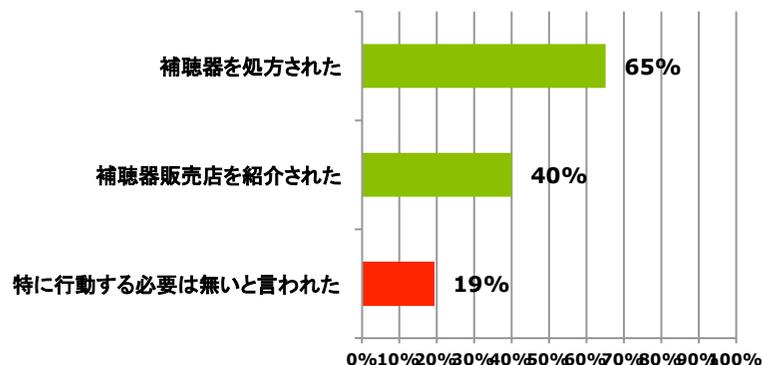
あなたは耳鼻科医師と難聴について相談したことはありますか？

耳鼻科医師と相談した割合

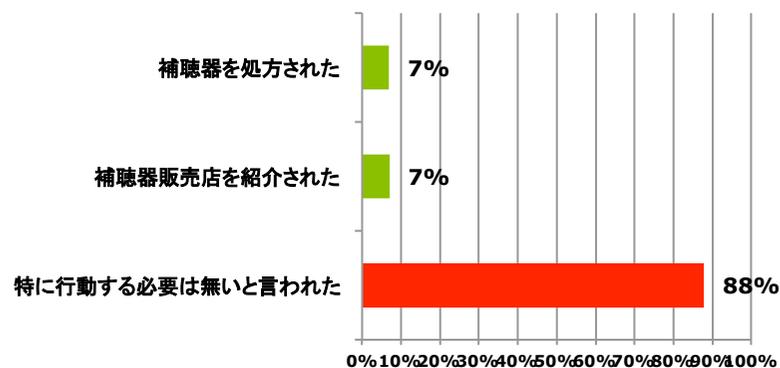


耳鼻科医師の処方又は対応

補聴器所有者数: 282人



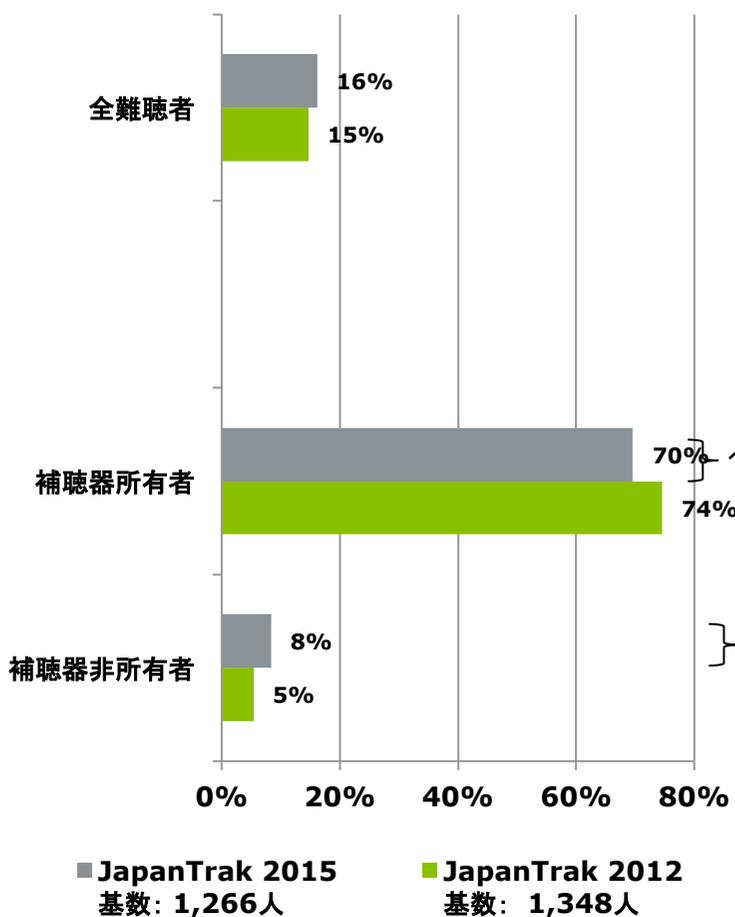
補聴器非所有難聴者数: 300人



補聴器所有への道のり: 補聴器販売店

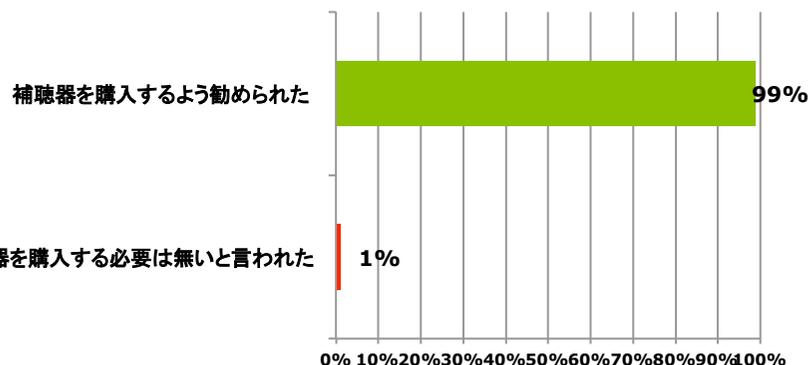
あなたは補聴器販売店と難聴について相談したことはありますか？

補聴器販売店と相談した割合

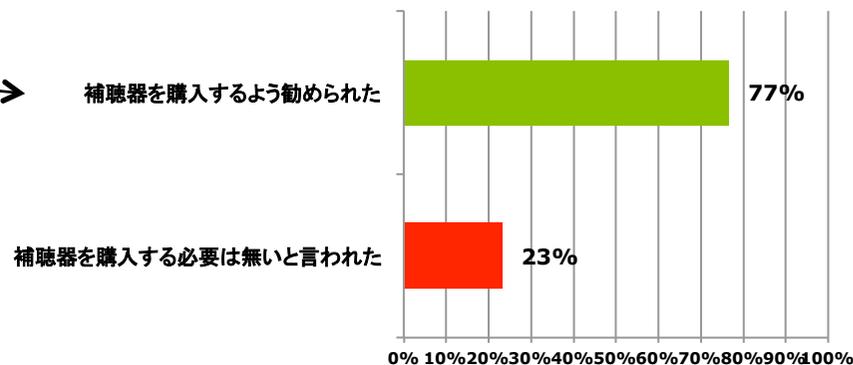


補聴器販売店の対応

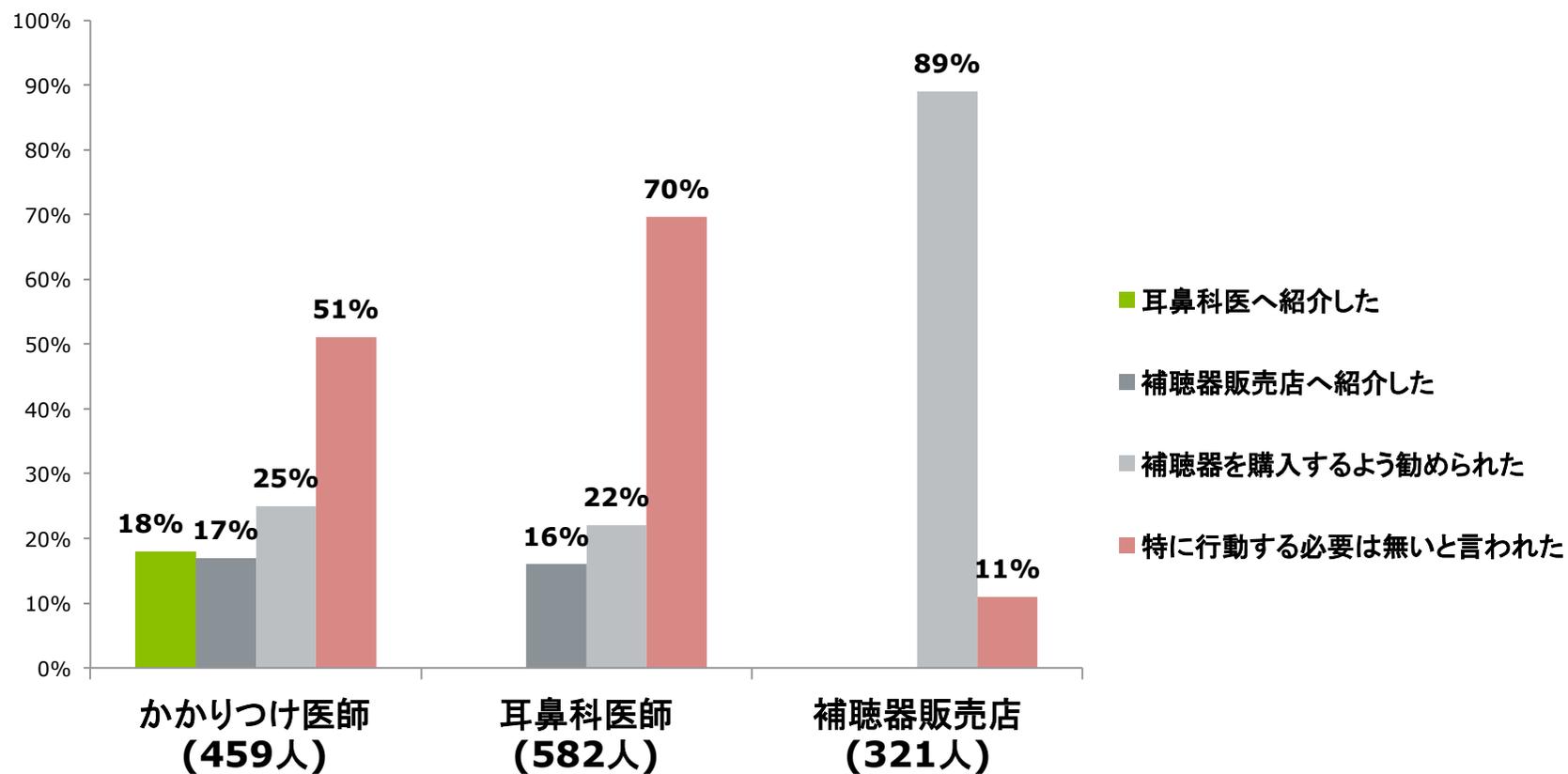
補聴器所有者数: 257人



補聴器非所有者数: 64人



補聴器所有への専門家の対応・推薦

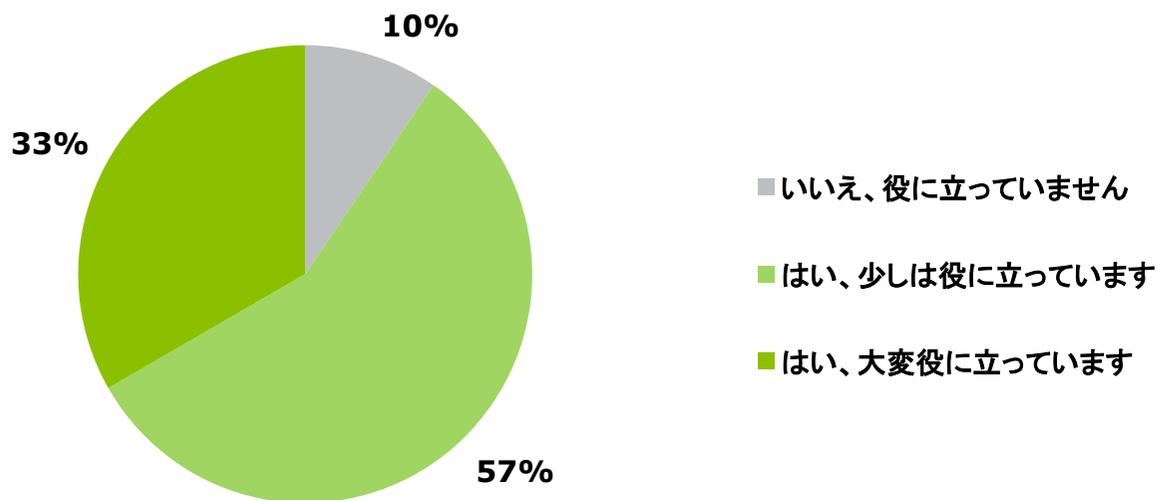


補聴器使用が社会的費用の負担減に寄与： 仕事上での優位性・うつ病・認知症・睡眠の質 について

仕事上での優位性:

仕事を持っている補聴器所有者の**90%**は補聴器が仕事上で役に立っていると
言っている

補聴器はあなたの仕事上でどのよ
うに役立っていますか？



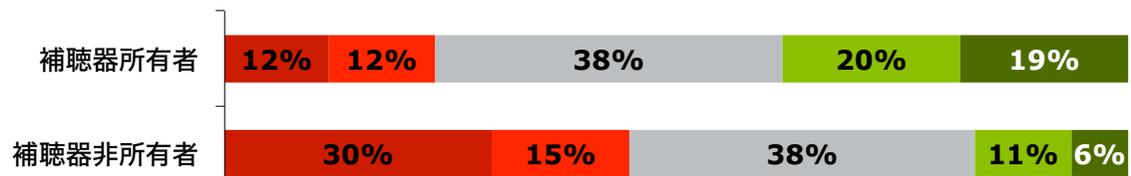
基数:153人

仕事上での優位性:

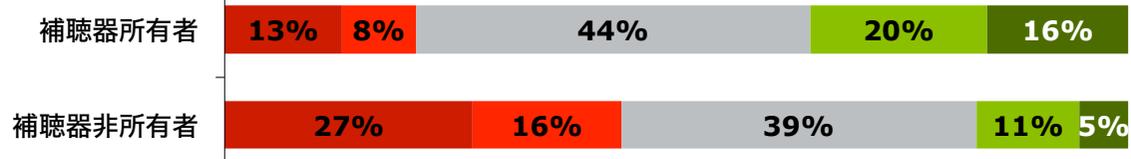
補聴器所有者は補聴器が難聴者にとって、出世・適切な仕事・高い報酬を得るために役立っていると認識している

■ 全く思わない ■ 余り思わない ■ どちらともいえない ■ 多少思う ■ 強く思う

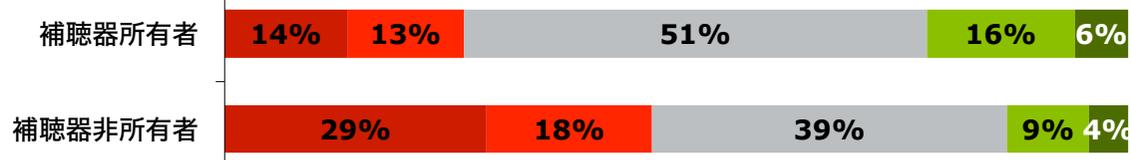
私は難聴の対策をとっていない人達が仕事上で出世しない傾向があると思う



私は難聴の対策をとっていない人達が仕事上で能力に合った仕事を得ていない傾向があると思う



私は難聴の対策をとっていない人達の報酬が低い傾向にあると思う



基数: 補聴器非所有者769人・補聴器所有者: 382人



その他の健康問題(1):

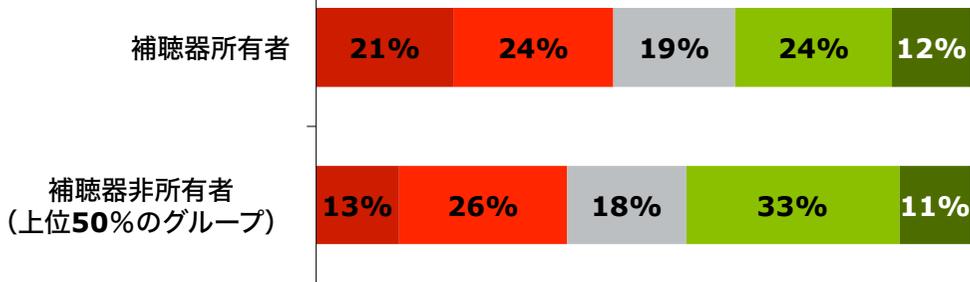
難聴度の高い上位50%のグループ*の補聴器非所有者は補聴器所有者と比べて夕方になると疲労が大きい

■ほとんど無い ■余り無い ■どちらとも言えない ■多少ある ■大いにある

私は夕方になるとしばしば肉体的な疲労を感じる



私は夕方になるとしばしば精神的な疲労を感じる



基数:補聴器所有者345名、聴力レベル上位50%*の数は143名

* 6グループの構成:この分析は“難聴レベル”を一つの要因とし、全て同一なものとして行われた。その中には以下の質問も含まれている:

- 障害のある耳の数(片耳又は両耳)
- 申告された聴力損失のレベル(軽度から重度まで)
- 6 APHAB-ECテストのスコア(Scaled 1-5の質問による)
- 補聴器を使用しない時の騒音下での会話困難度

→ 回答者を同数の6グループに分類した(1グループ=サンプル中の全難聴者数の16.67%)

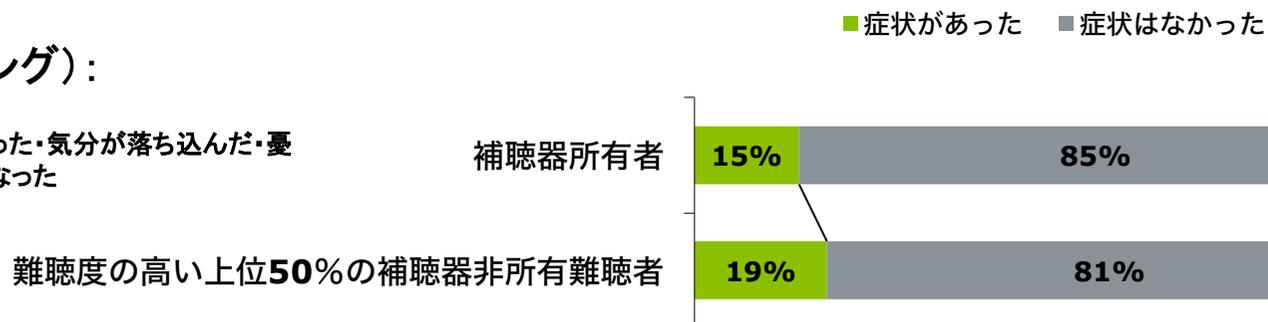


その他の健康問題(2):

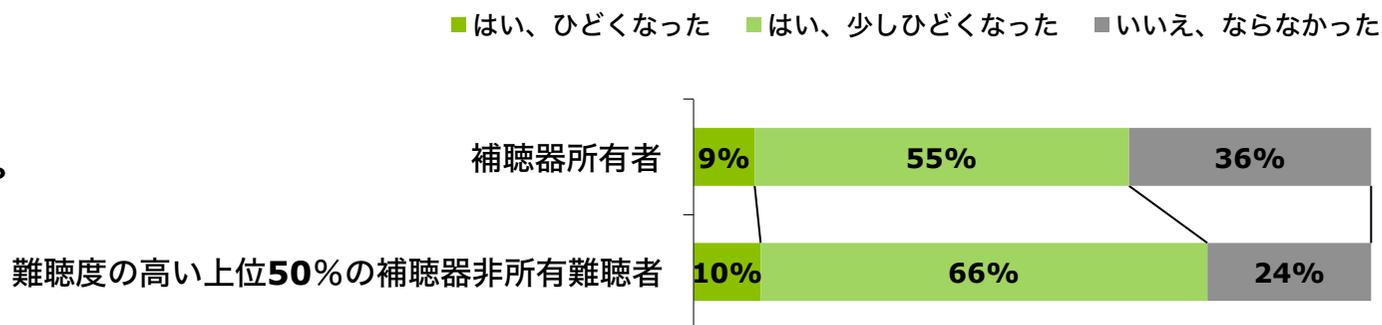
補聴器所有者は補聴器非所有難聴者(難聴度の高い上位50%のグループ*)と比べてうつ病になるリスクが低く(PHQ-2スクリーニング)認知症になるリスクも低い

うつ病の症状 (PHQ-2スクリーニング):

過去2週間以内に:
興味が無くなった・楽しまなくなった・気分が落ち込んだ・憂鬱になった・絶望的な気持ちになった



認知症の症状: 過去1年間で物忘れが さらにひどくなりましたか?



基数:補聴器所有者351名、補聴器非所有難聴者数145名

* 6グループの構成:この分析は“難聴レベル”を一つの要因とし、全て同一なものとして行われた。その中には以下の質問も含まれている:

- 障害している耳の数(片耳又は両耳)
- 申告された聴力損失のレベル(軽度から重度まで)
- 6 APHAB-ECテストのスコア(Scaled 1-5の質問による)
- 補聴器を使用しない時の騒音下での会話困難度

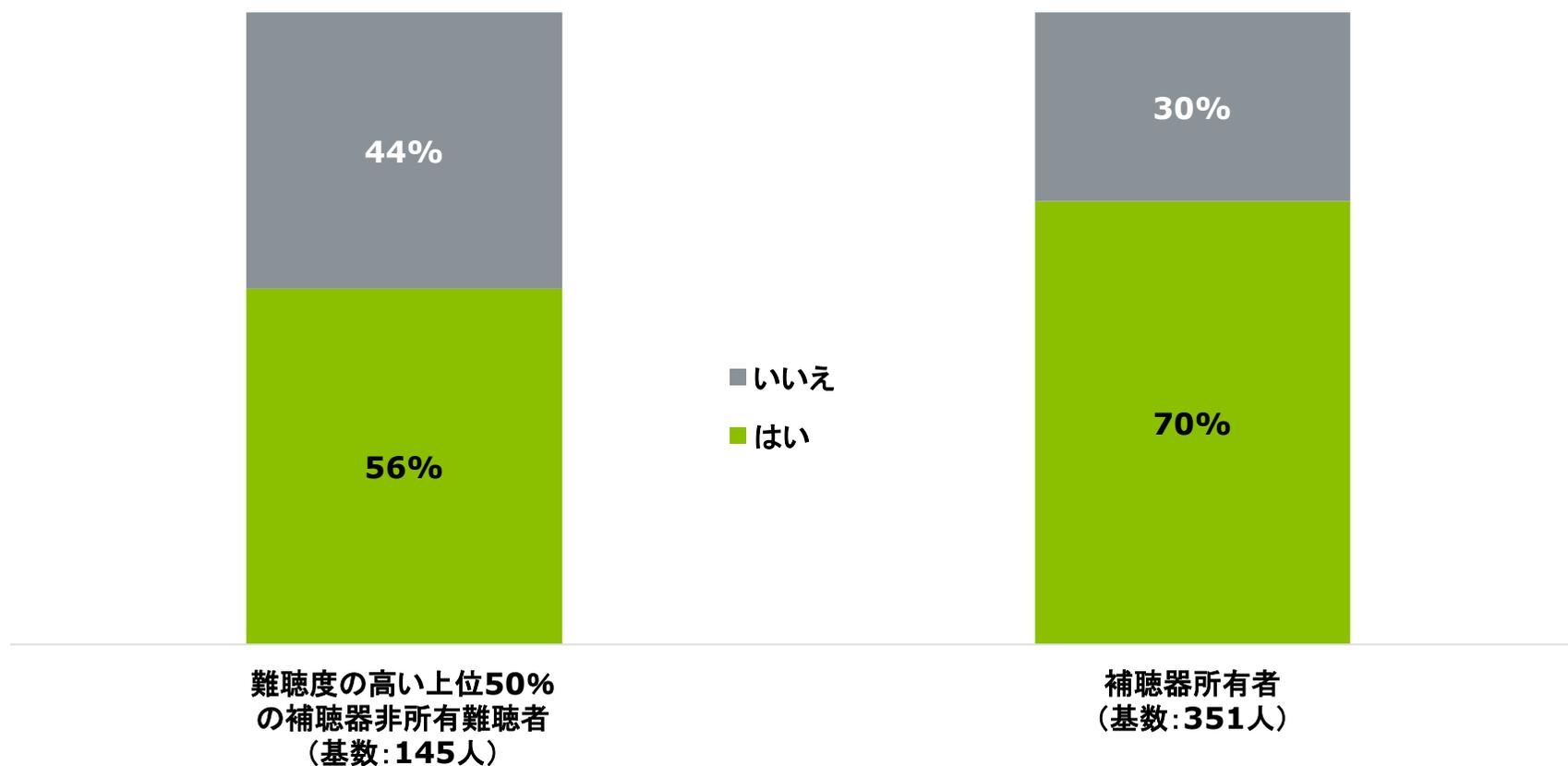
→回答者を同数の6グループに分類した(1グループ=サンプル中の全難聴者数の16.67%)



その他の健康問題(3):

難聴者が補聴器を使用すると睡眠の質が向上すると推定される

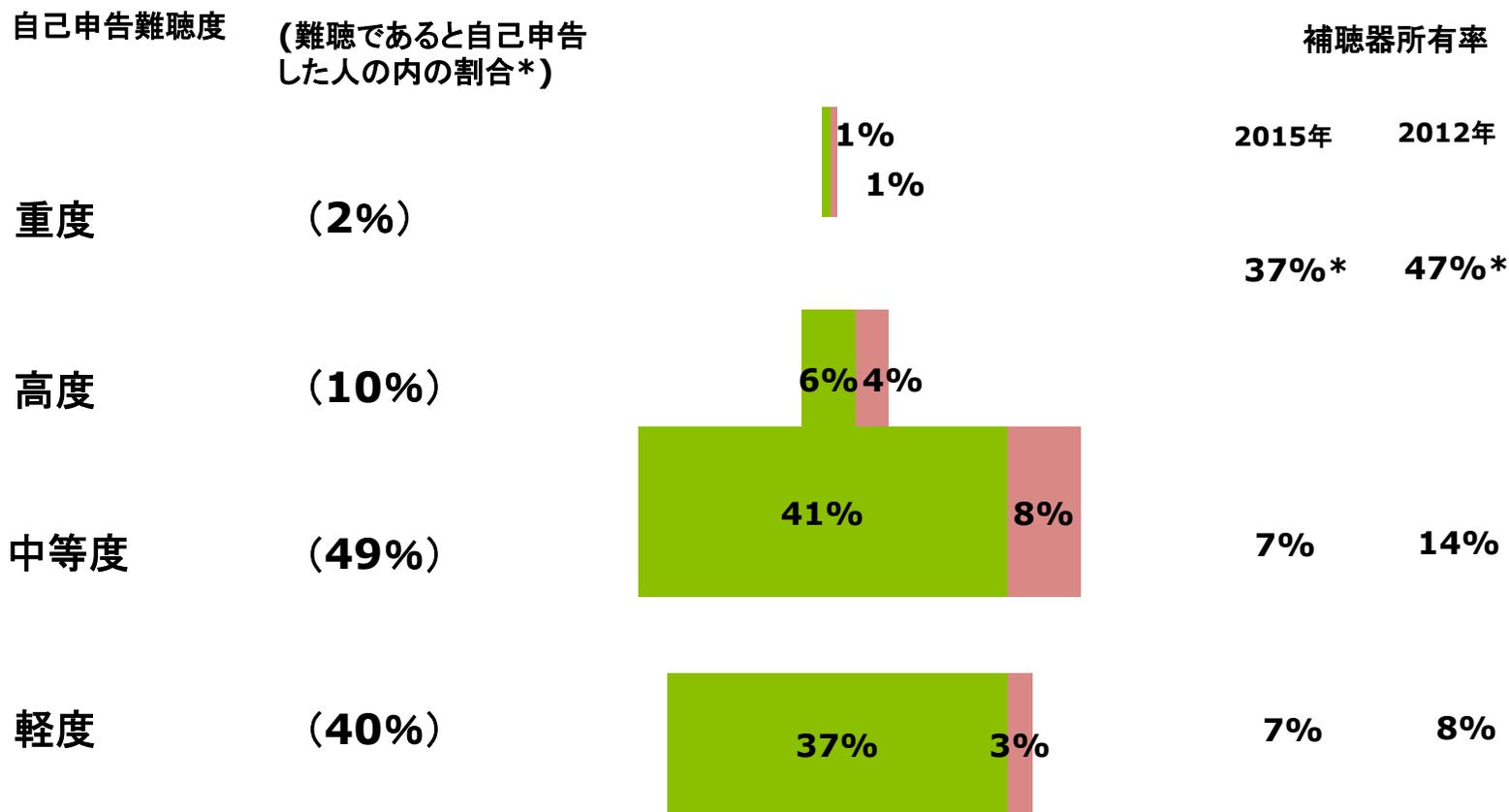
あなたは普段の睡眠の質に満足されていますか？



3. 補聴器所有者の分析

補聴器所有者と補聴器の寿命(買い替え時期) 及び使用状況について

難聴度が軽度・中等度のうちは補聴器所有率が低い



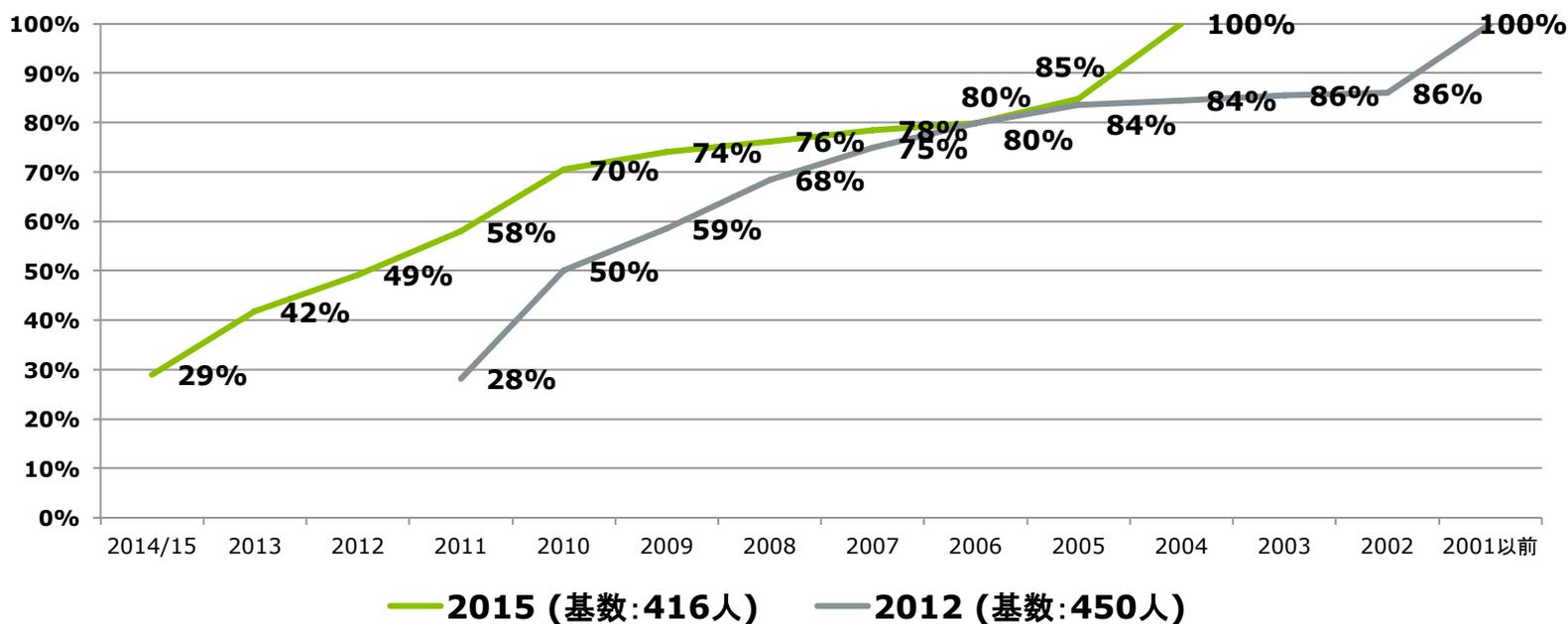
基数: 1,180人
 四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある
 * 基数が過小なため重度と高度難聴者を合算して算出している

■ 補聴器非所有
■ 補聴器所有



現在所有されている補聴器の42%は過去2年以内に購入されたものである

現在所有されている補聴器の購入時期



現在所有されている補聴器の年数:

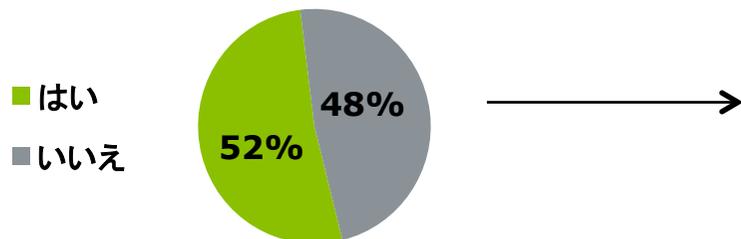
2015: 4.1年(平均)

2012: 3.5年(平均)

難聴に気づいてから補聴器を購入するまでに平均4-6年が経過している。
補聴器は5年間使用してから買い替えられている

ご使用中の補聴器は初めて購入された補聴器ですか？

2012: 51%



補聴器所有者: 416人

以前お持ちの補聴器は何年間所有されていましたか？

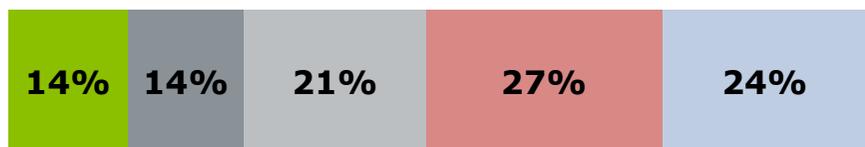


■ 1-3年間 ■ 4-6年間 ■ 7-10年間 ■ 11年以上

基数: 195人

買い替えるまでの期間:
2015年: 5年間(平均)
2012年: 4年間(平均)

あなたが初めて補聴器を購入した時のことを思い出してください。
あなたは難聴に気づいてから補聴器を購入するまでに何年間かかりましたか？



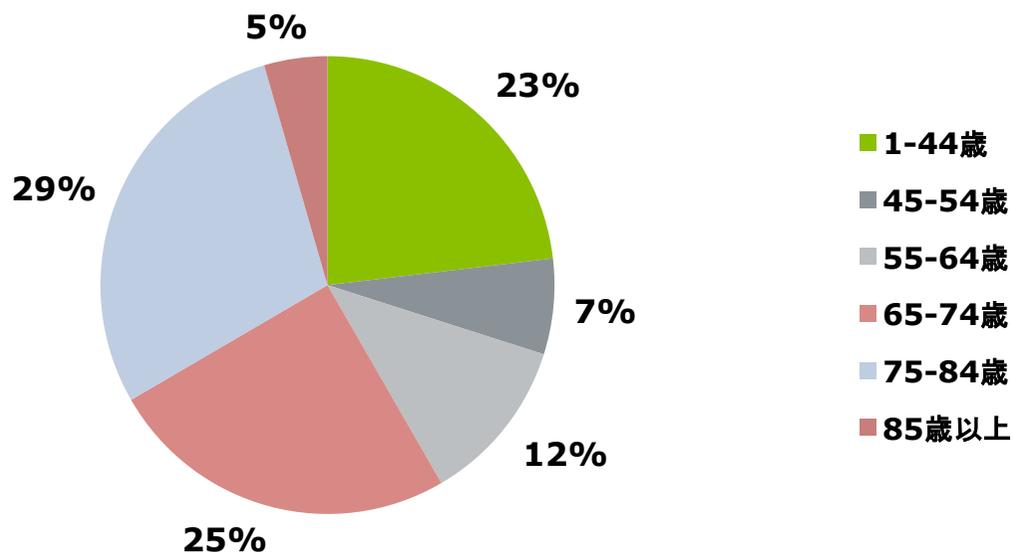
■ 1年間 ■ 2年間 ■ 3年間 ■ 4-6年間 ■ 6年間以上

基数: 221人



補聴器が必要であると感じたのは70歳(中央値)になった時である

あなたが補聴器を必要であると感じたのは何歳の時でしたか？

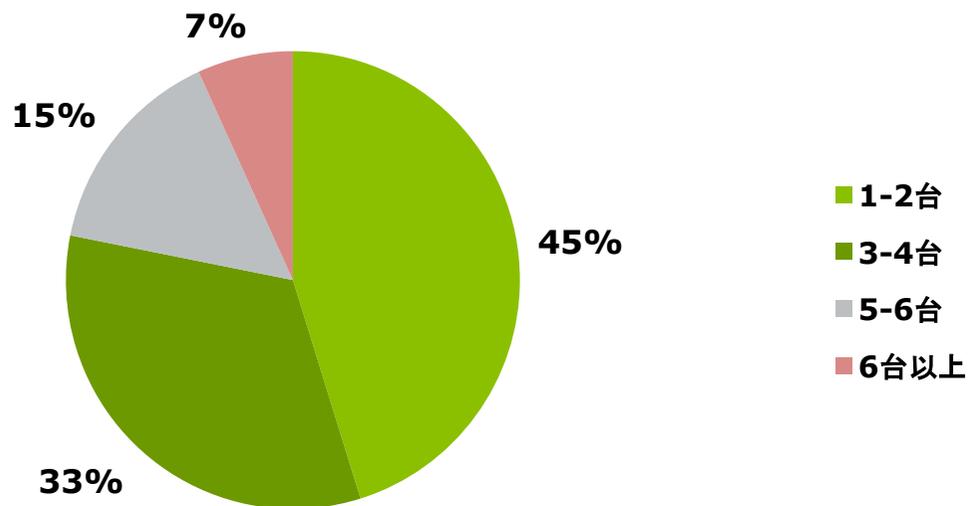


中央値: 70歳

基数: 416人

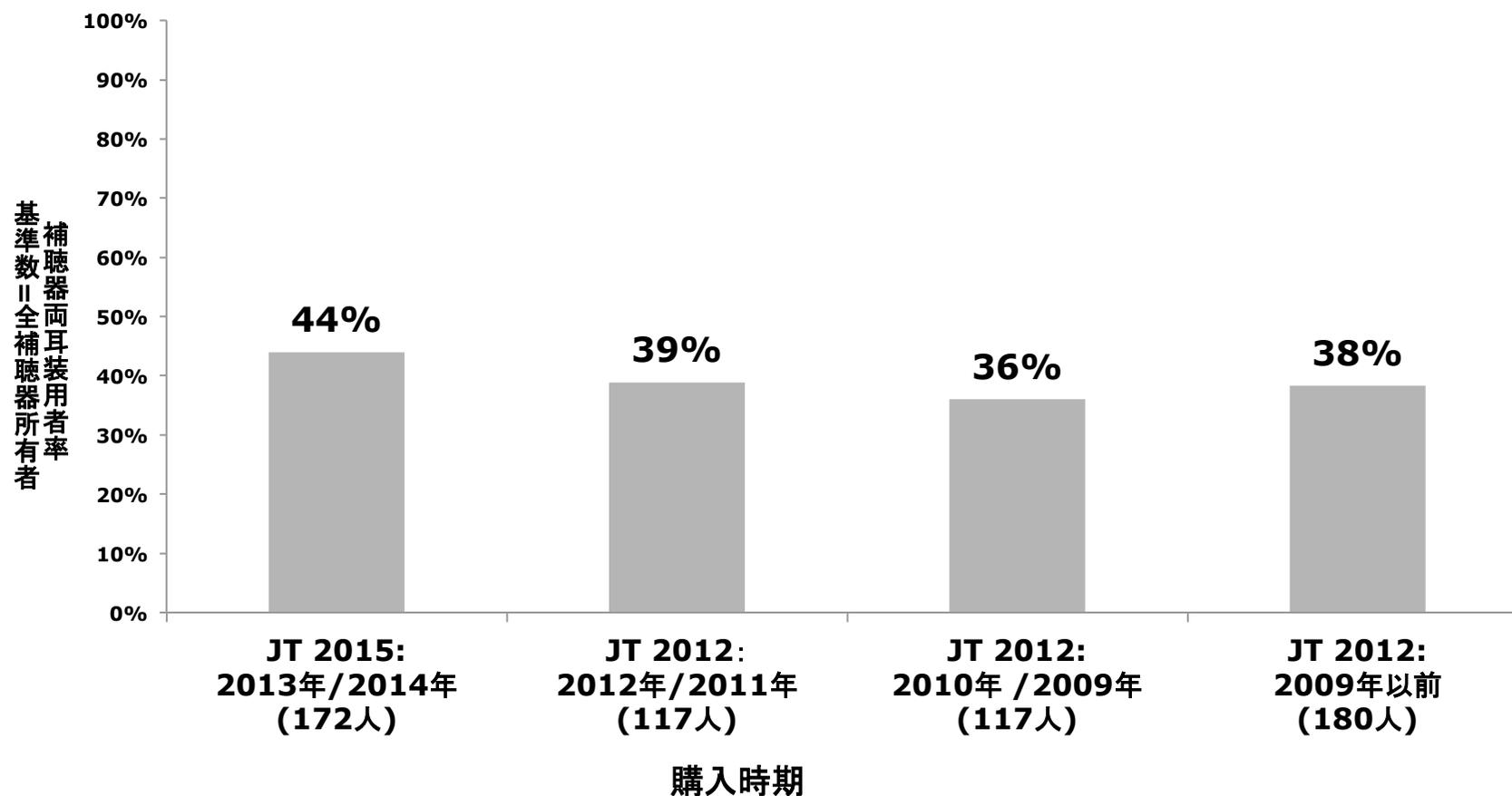
45%の補聴器所有者は、今までに1-2台の補聴器使用を経験している

あなたは現在使用中の補聴器を含めて、今までに何台の補聴器を所有しましたか？



基数:416人

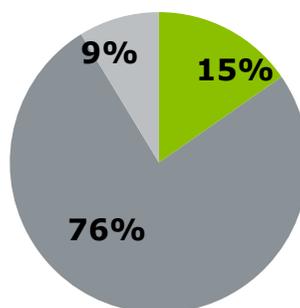
購入時期別の補聴器両耳装用者率



**補聴器所有者のうち15%が障害者総合支援法又は自治体独自の支援制度に基づく公的支給補助を受けている。
これらの制度の存在を知っている補聴器非所有者は9%のみ**

補聴器所有者：
購入に際し何らかの公的補助を受けましたか？

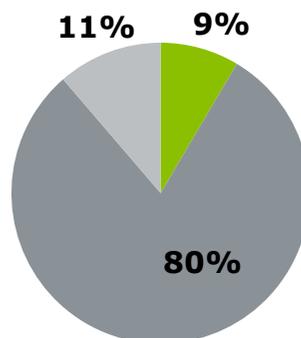
2015年



- はい (2012: 12%)
- いいえ (2012: 81%)
- わかりません (2012: 7%)

補聴器所有者: 416人

補聴器非所有者：
購入に際し何らかの公的補助を受けられる制度があることを知っていますか？

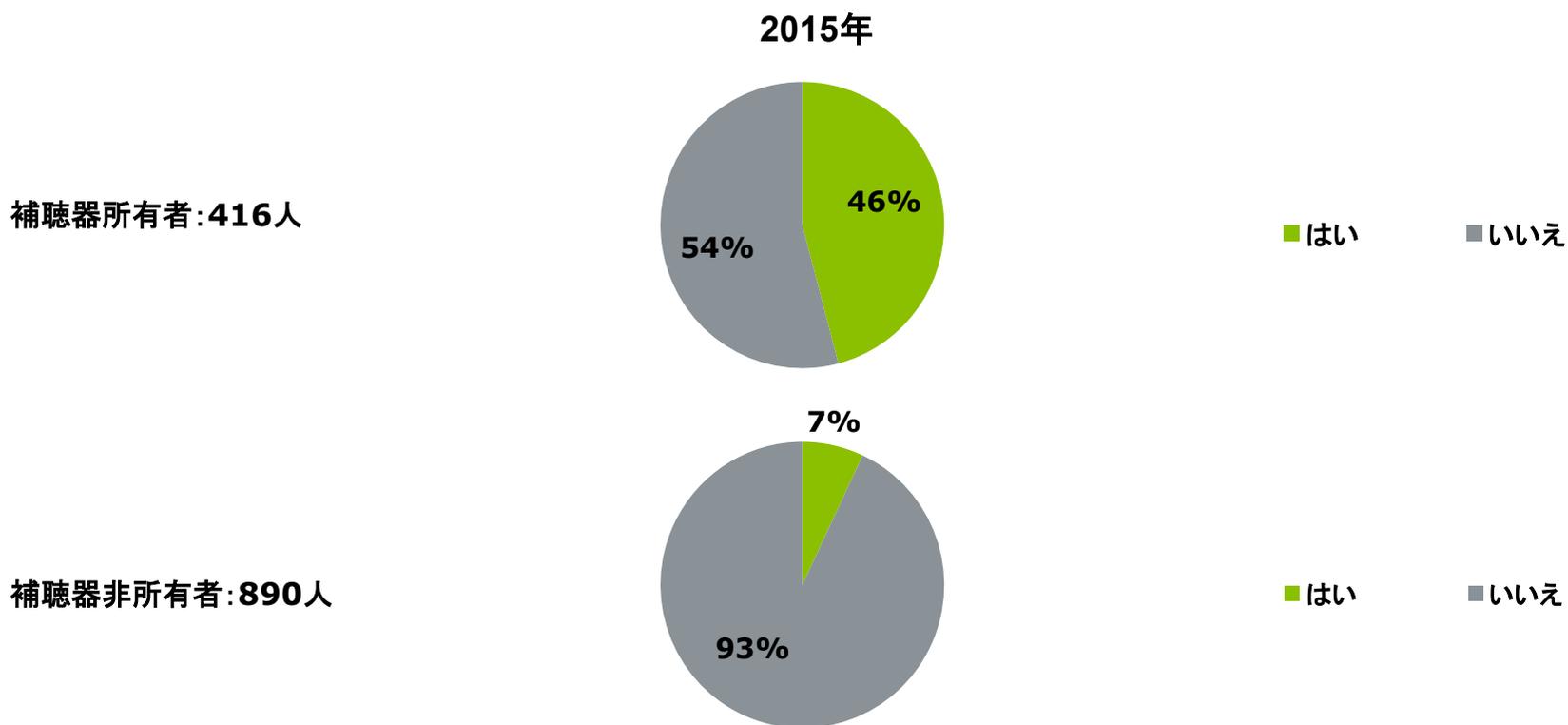


- はい (2012: 6%)
- いいえ (2012: 84%)
- わかりません (2012: 10%)

補聴器非所有者: 890人

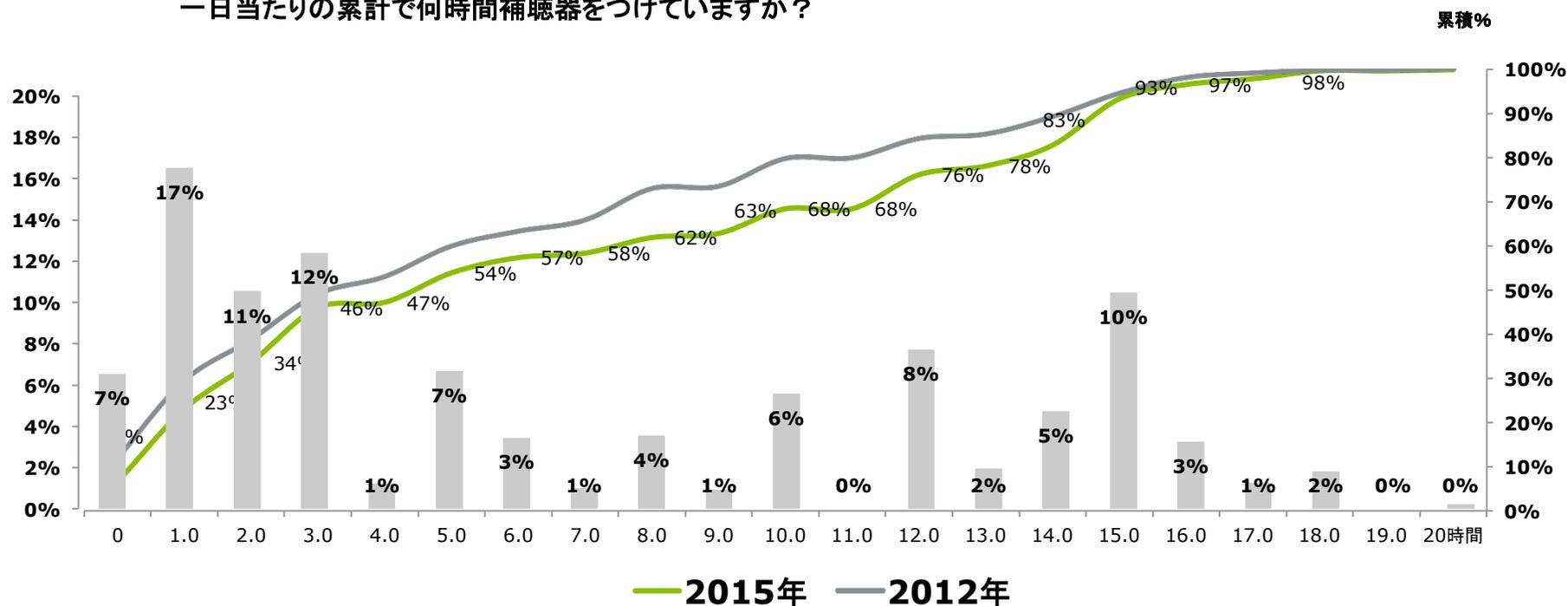
一般的に補聴器には消費税がかからないことを知らない

あなたは補聴器には消費税がかからないことを知っていますか？
全難聴者数1,306人のうち12%が知っている



平均して補聴器は一日当たり6.8時間使用されている

一日当たりの累計で何時間補聴器をつけていますか？



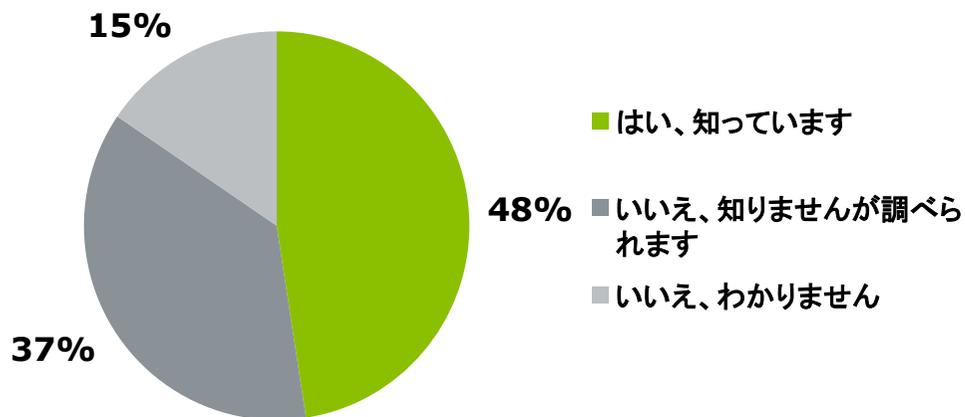
補聴器所有者:
2015年:416人
2012年:450人

一日当たりの補聴器装用時間:
2015年:6.8時間
2012年:5.7時間

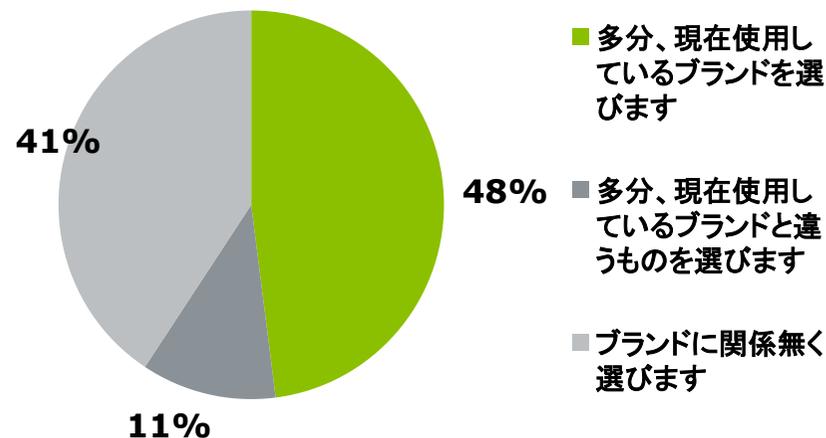


補聴器所有者の48%が現在使用している補聴器のブランドを知っている

あなたは現在使用している補聴器のブランドを知っていますか？



あなたは今後新しい補聴器を購入される時は何のブランドを選ばれますか？

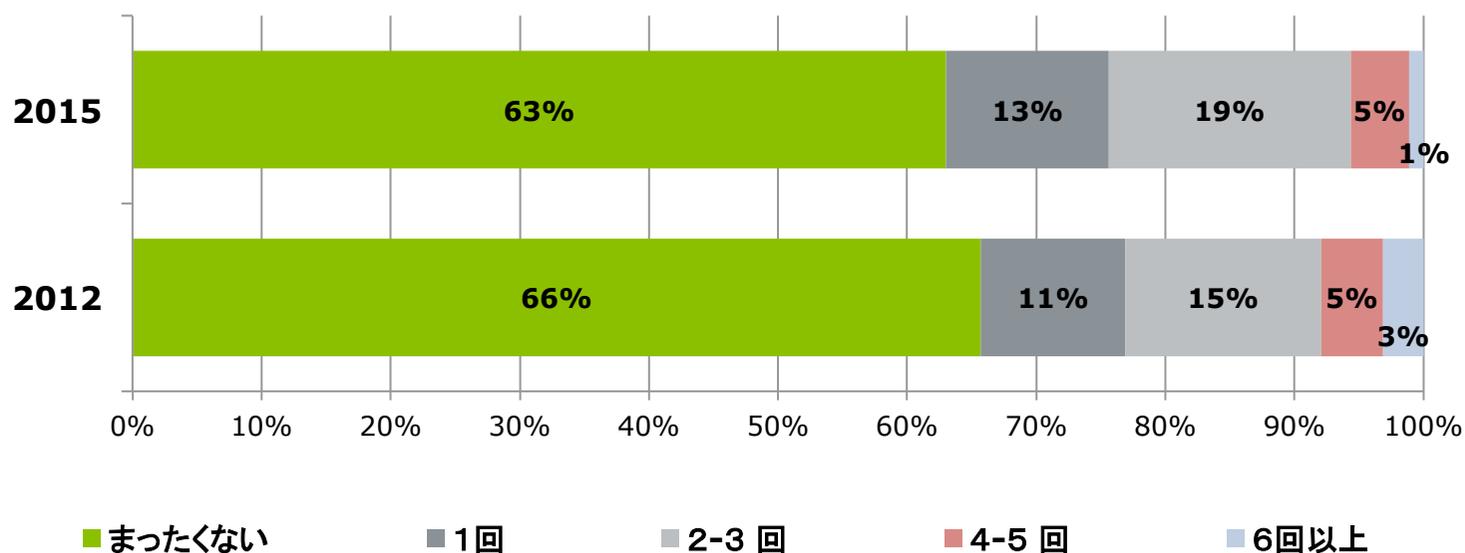


基数:416人/374人



現在所有している補聴器の76%は、修理実績がないか、若しくは1回のみでの修理で適切に機能している

適切に機能しないという理由により修理を余儀なくされたことが何回ありますか？

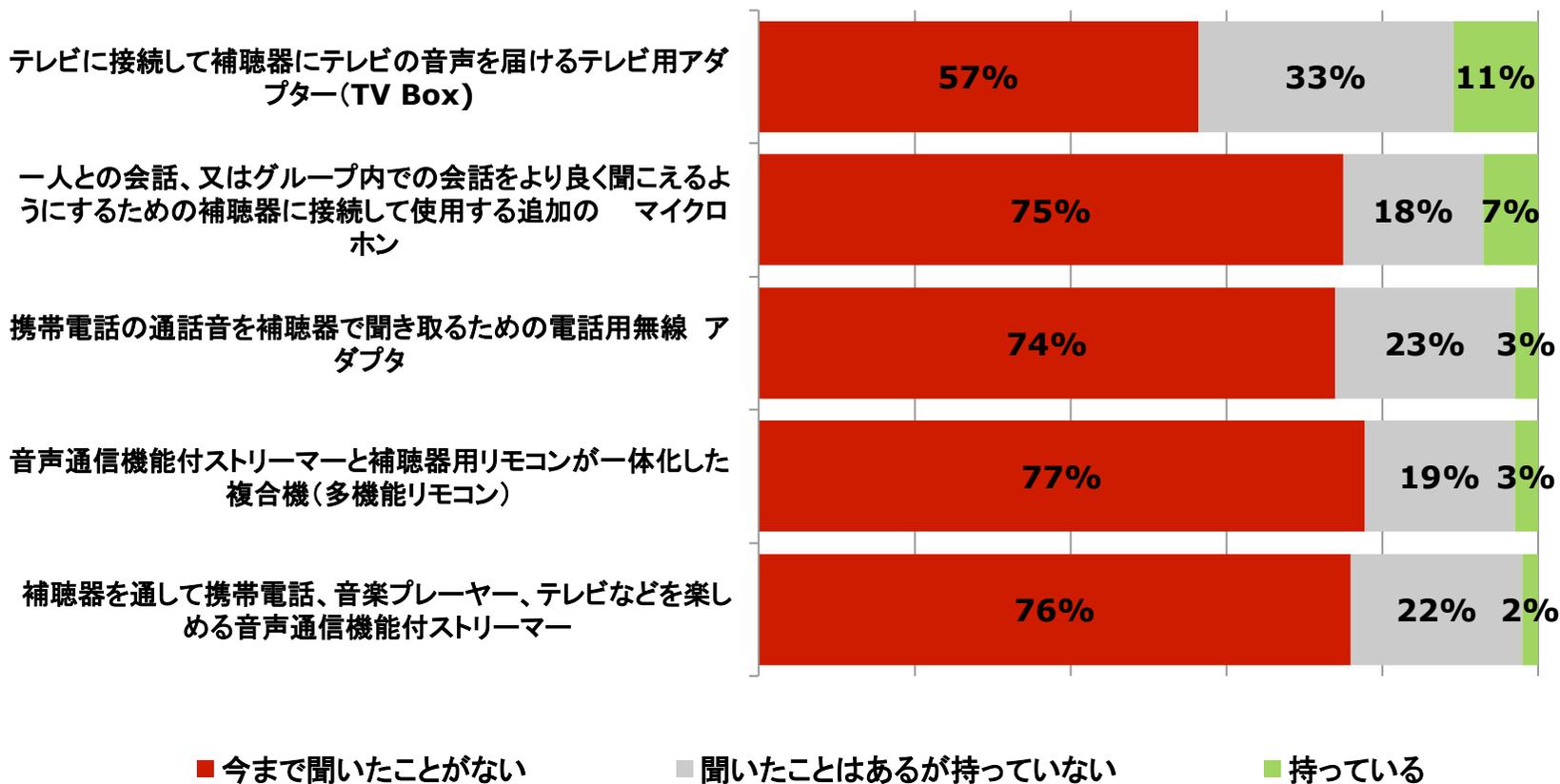


補聴器所有者:
2015: 416人
2012: 450人

補聴器関連アクセサリーの認知度と所有状況

最も所有されている関連アクセサリーはTV Boxで、補聴器所有者の11%が所有している また33%はTV Boxを聞いたことはあるが所有はしていない

以下のアクセサリーで聞いたことがあるのはどれですか？ またお持ちの物があれば教えてください。



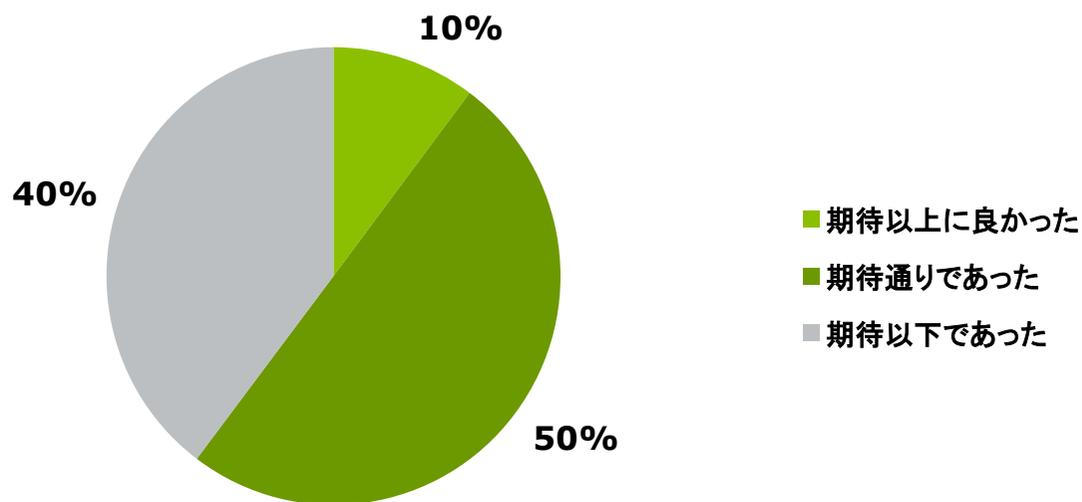
基数:416人



補聴器の満足度及び満足度の影響因子

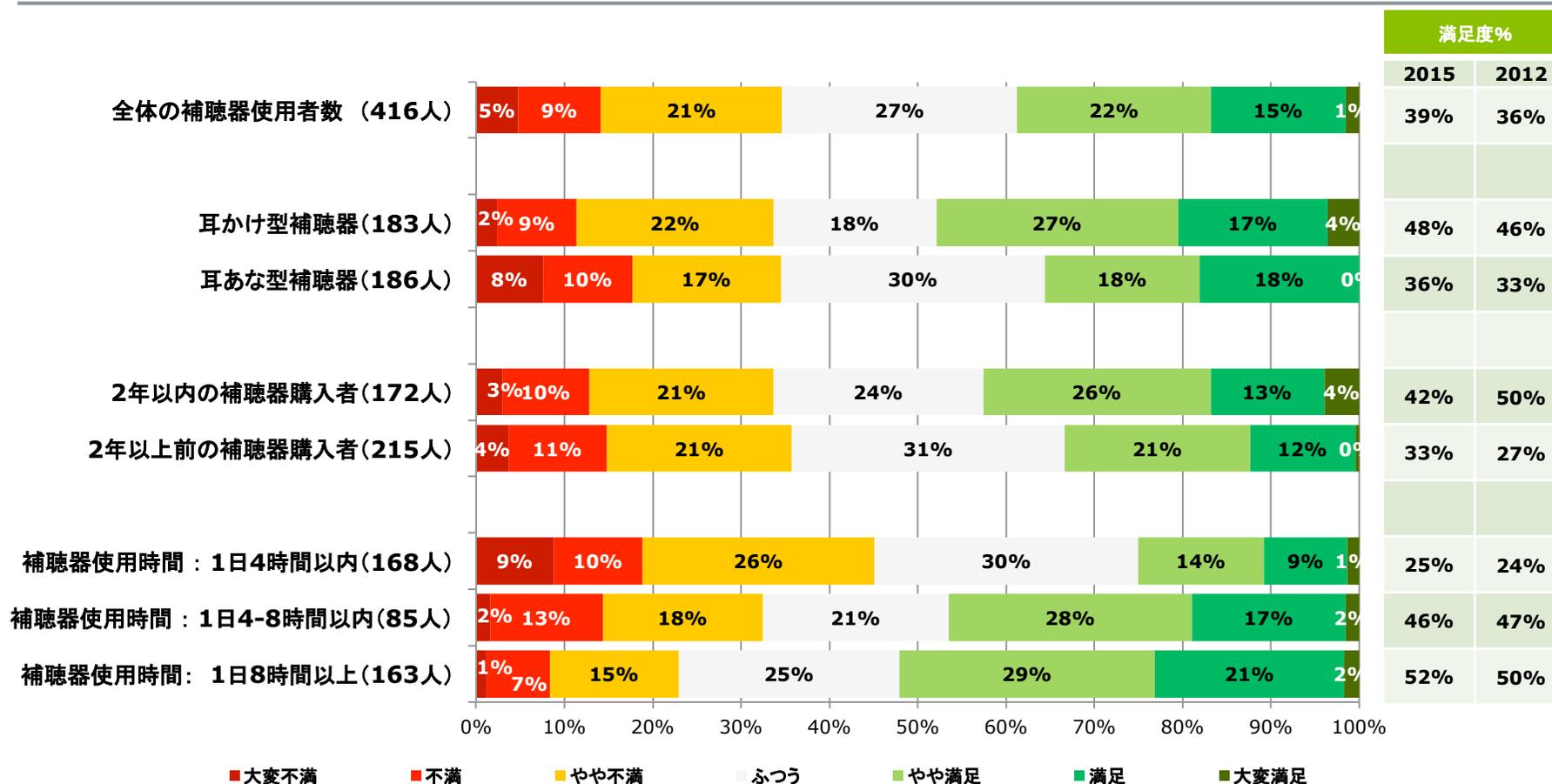
補聴器所有者の60%が、補聴器が期待していた通り、あるいは期待していた以上に良く動作しているとの印象を持っている

補聴器に対する期待は、補聴器の使用前、使用後ではいかがでしたか？

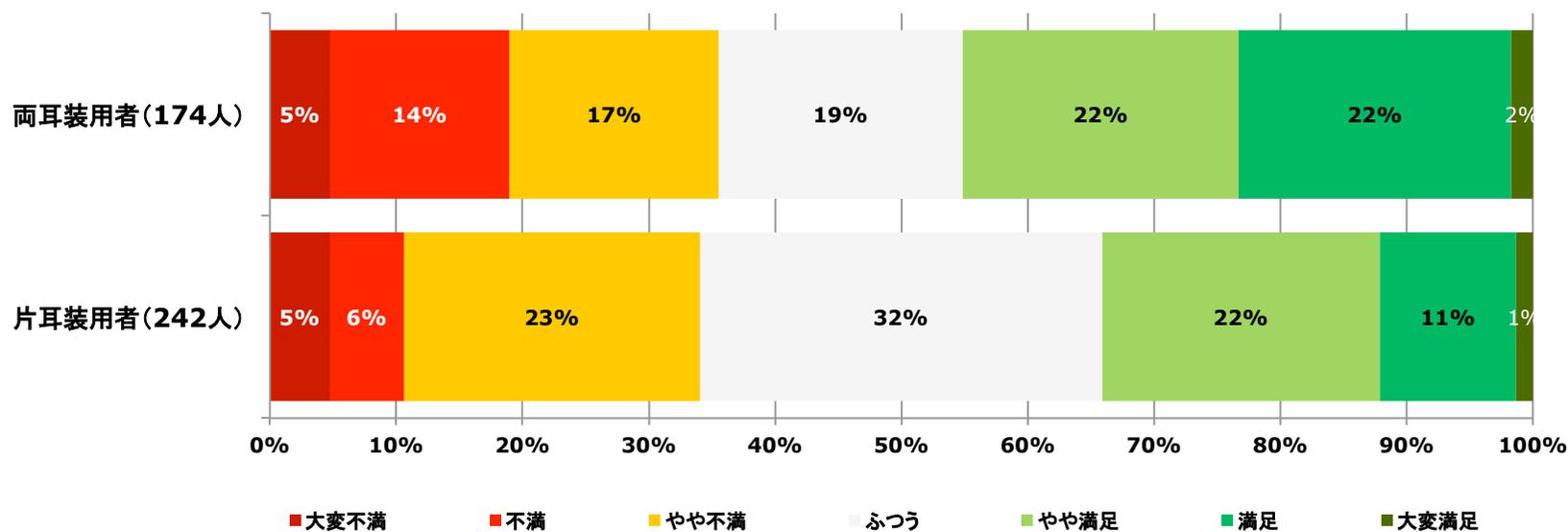


基数:416人

補聴器の全体的満足度は前回調査時(2012)の36%から39%に上昇。
 最も高い満足度を得たカテゴリーは 1)耳かけ型補聴器 2)2年以内に購入した補聴器 3)1日当たり8時間以上の補聴器使用

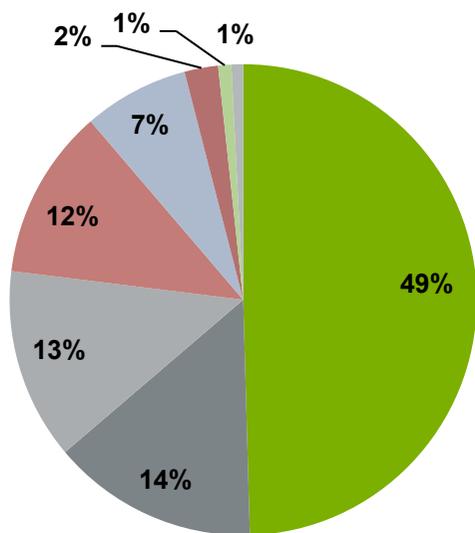


両耳装用者の全体的満足度は片耳装用者に比べ相対的に高い

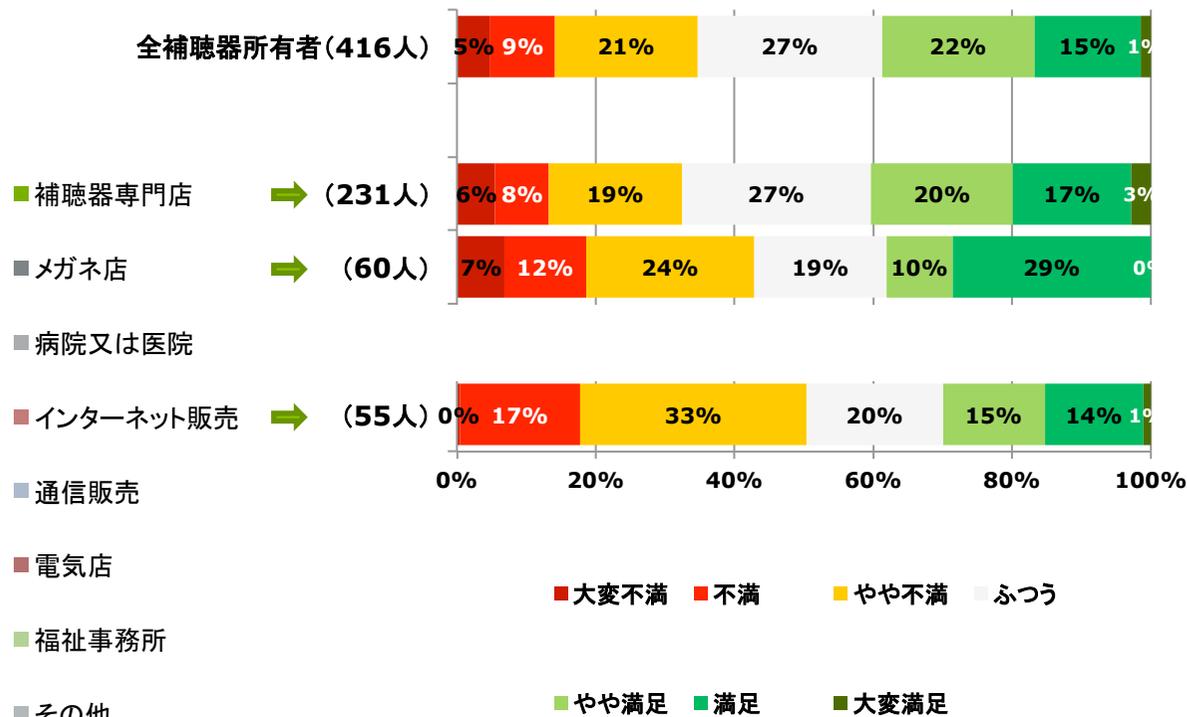


補聴器所有者の半数は補聴器専門店で購入している 対面販売ではないインターネットを介して購入した補聴器の満足度は 相対的に低い

あなたのご使用中又はお持ちの補聴器はどこで購入されましたか？



補聴器の全体的満足度





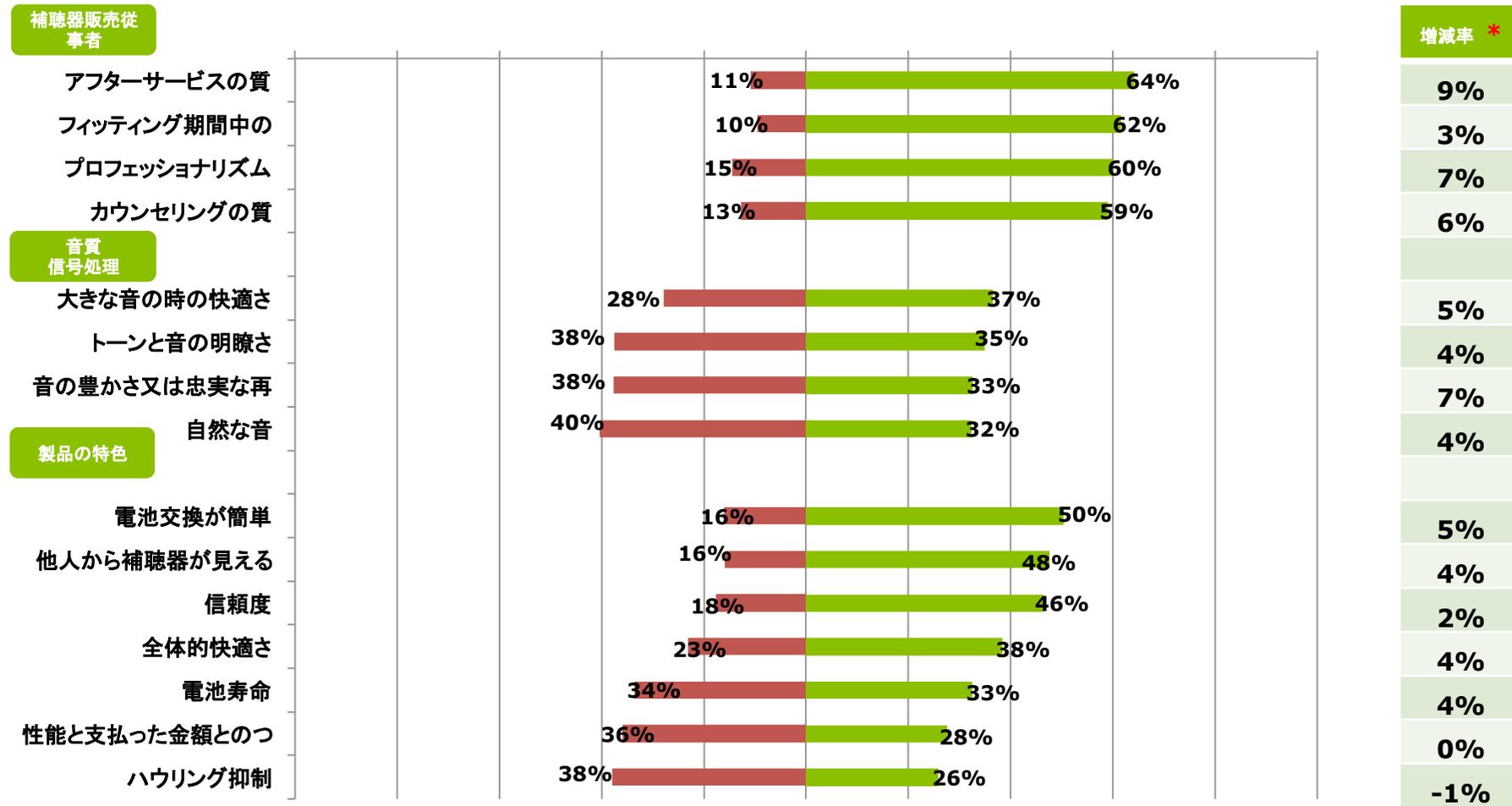
補聴器の全体的満足度に関する各国比較

日本の満足度は前回調査時から上昇したものの欧米諸国に比べ依然として半分以下

	フランス	スイス	イギリス	ドイツ	デンマーク	ノルウェー	イタリア	日本
全体的満足度 2009	86%	-	77%	72%	-	-	-	-
全体的満足度 2012	80%	84%	72%	77%	70%	72%	70%	36%
全体的満足度 2015	84%	81%	70%	77%	-	-	79%	39%



現在所有している補聴器の満足度(1)



* JT2012と比較した補聴器所有者の満足度増減率

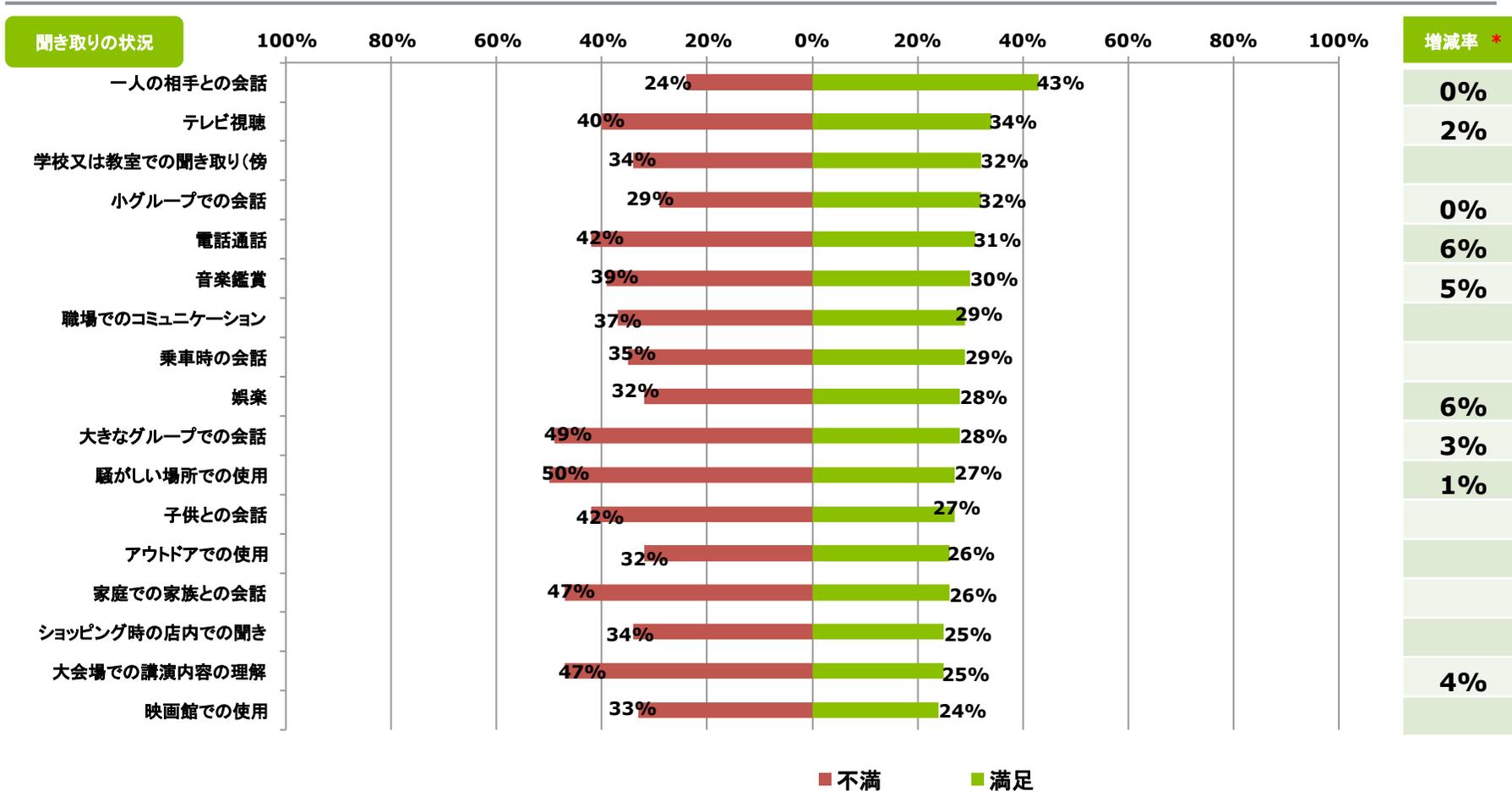
■ 不満 ■ 満足

補聴器所有者: 416人

不満 = 大変不満 + 不満 + やや不満
満足 = 大変満足 + 満足 + やや満足



現在所有している補聴器の満足度(2)



*JT2012と比較した補聴器所有者の満足度増減率

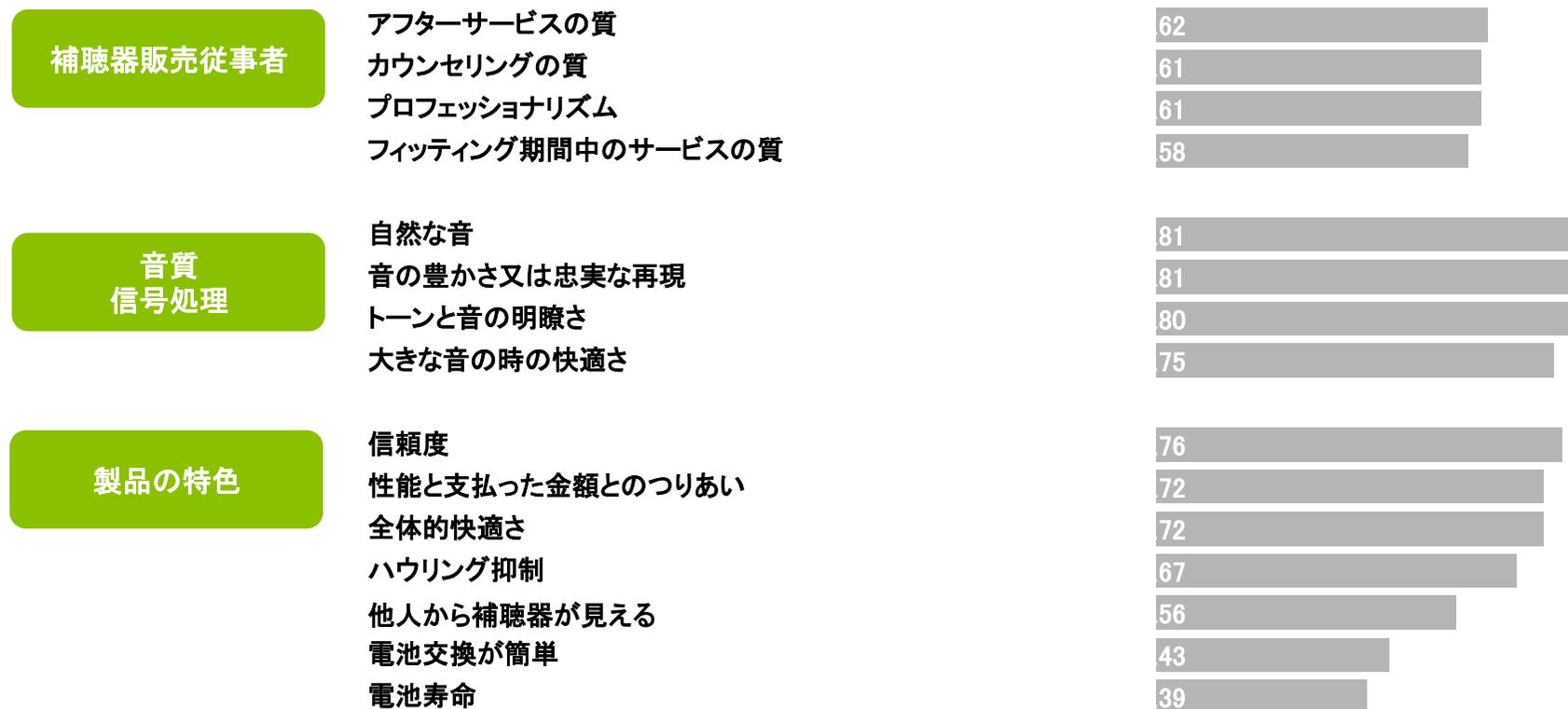
不満 = 大変不満 + 不満 + やや不満
 満足 = 大変満足 + 満足 + やや満足

補聴器所有者: 416人



現在所有されている補聴器の満足度に影響を与える因子： 音質/信号処理に関連する項目が最も重要な因子である

補聴器の全体的満足度に対する影響度*

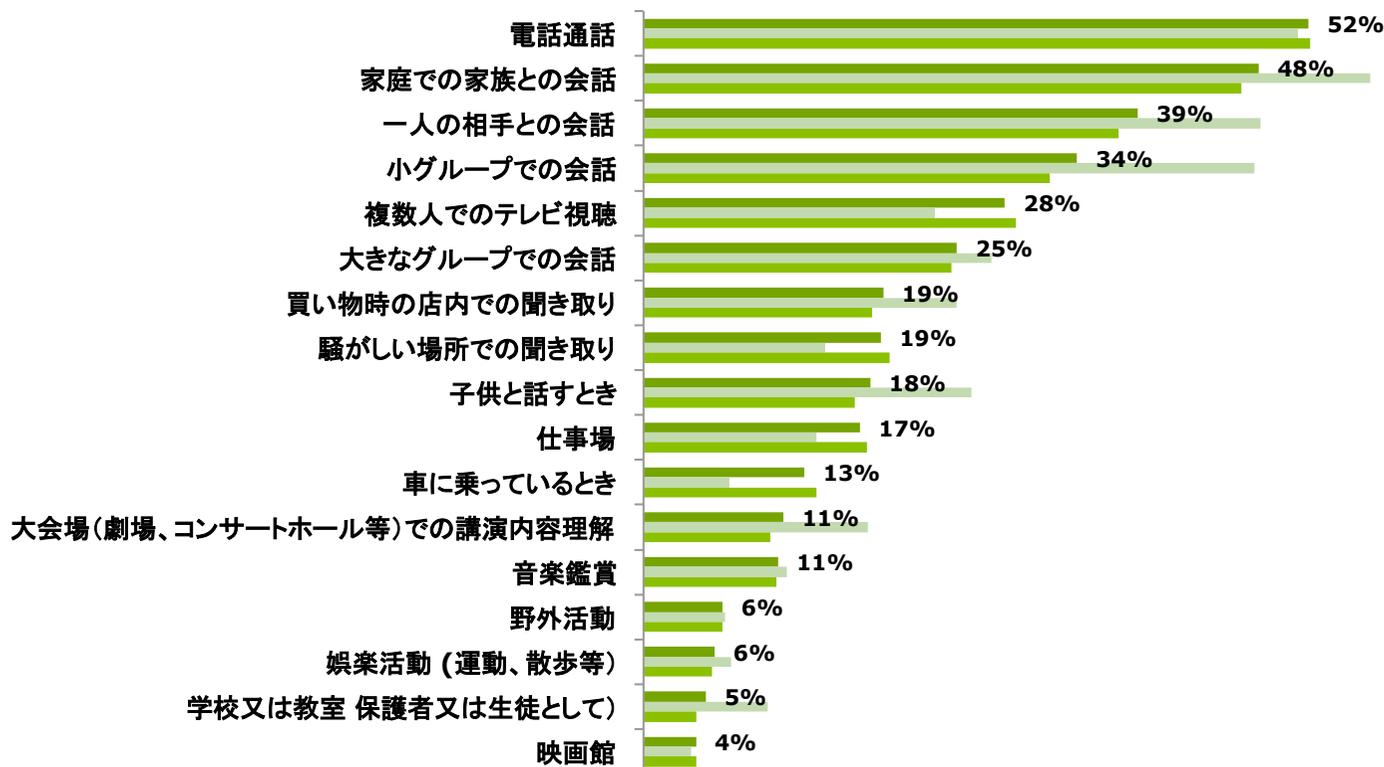


* 影響度は0を最小値、1を最大値として示される。0はその項目が全体的満足度に全く影響を与えていないことを示し、反対に1は完全に満足度に影響を与えていることを示している。
表からは「自然な音」「音の豊かさ又は忠実な再現」が最も満足度に対する影響度が高い項目と読み取れる。



より良い聞き取りが必要とされる場面： 電話での会話、家族との団らん等が上位に挙げられる

より良い聞き取りを最も必要とする場面はどれですか？（5項目まで選択可）



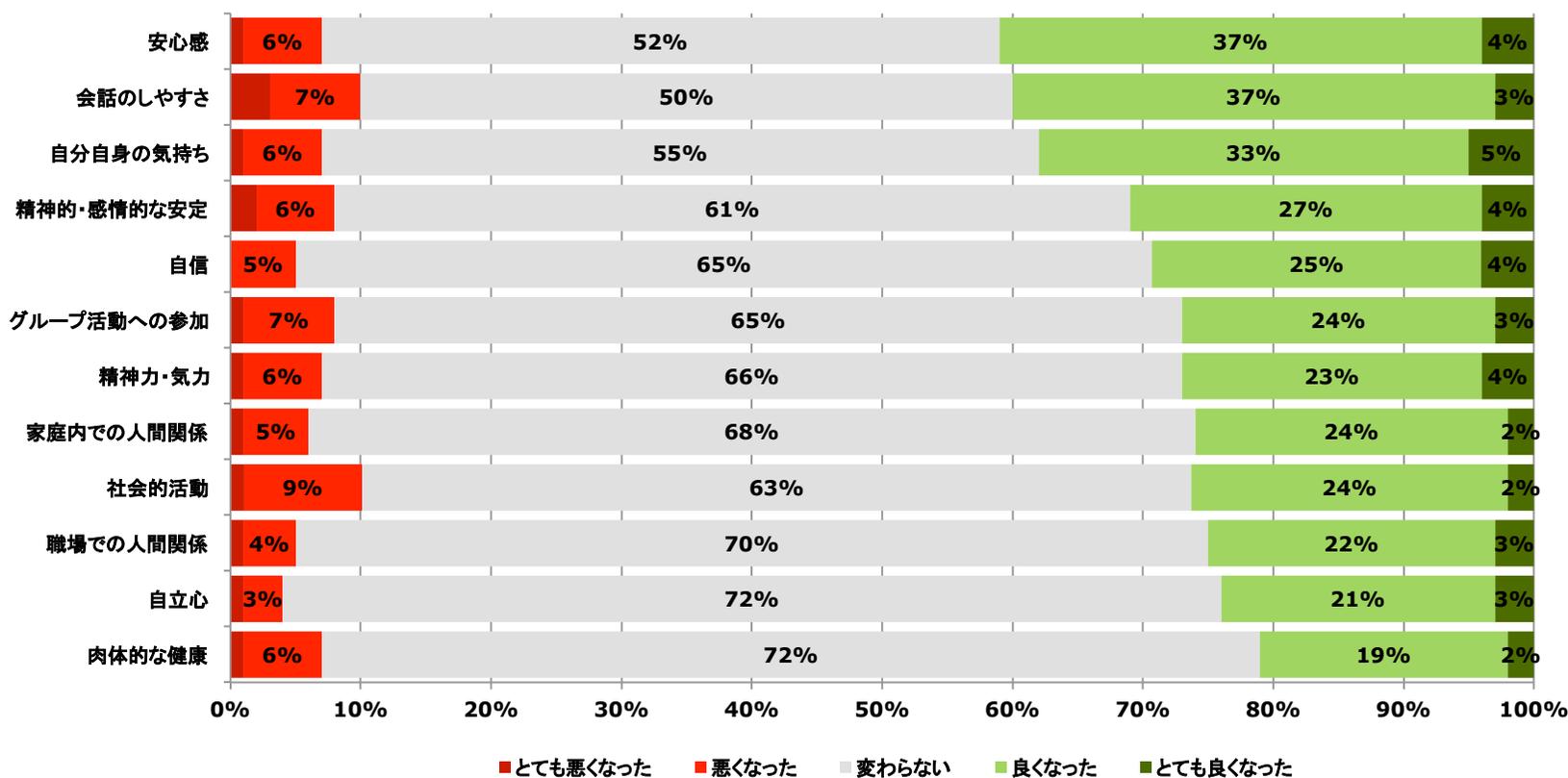
■ 全難聴者（自己申告による）：1,306人
 ■ 難聴者で補聴器所有者：416人
 ■ 難聴者で補聴器非所有者：890人



生活の質(QOL)向上のため補聴器から得られる 良い影響

補聴器はさまざまな側面に対して大変良い影響を与えている 特に「安心感」「会話のしやすさ」「自分自身の気持ち」などに 改善が見られる

あなたが補聴器を使い始めてから、補聴器のおかげで改善したと思う側面はどれですか？

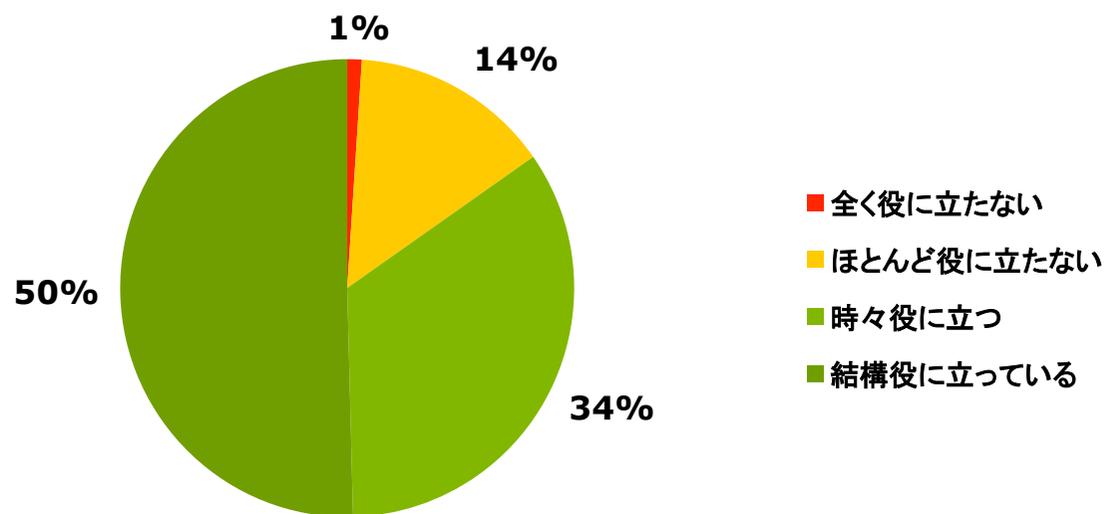


補聴器所有者: 416人



補聴器所有者の84%が補聴器の使用により生活の質(QOL)が何がしか改善したと答えている

あなたの生活の質(QOL)の改善に補聴器はどの程度役に立っていますか？



基数:416人

4. 補聴器非所有難聴者に関する分析

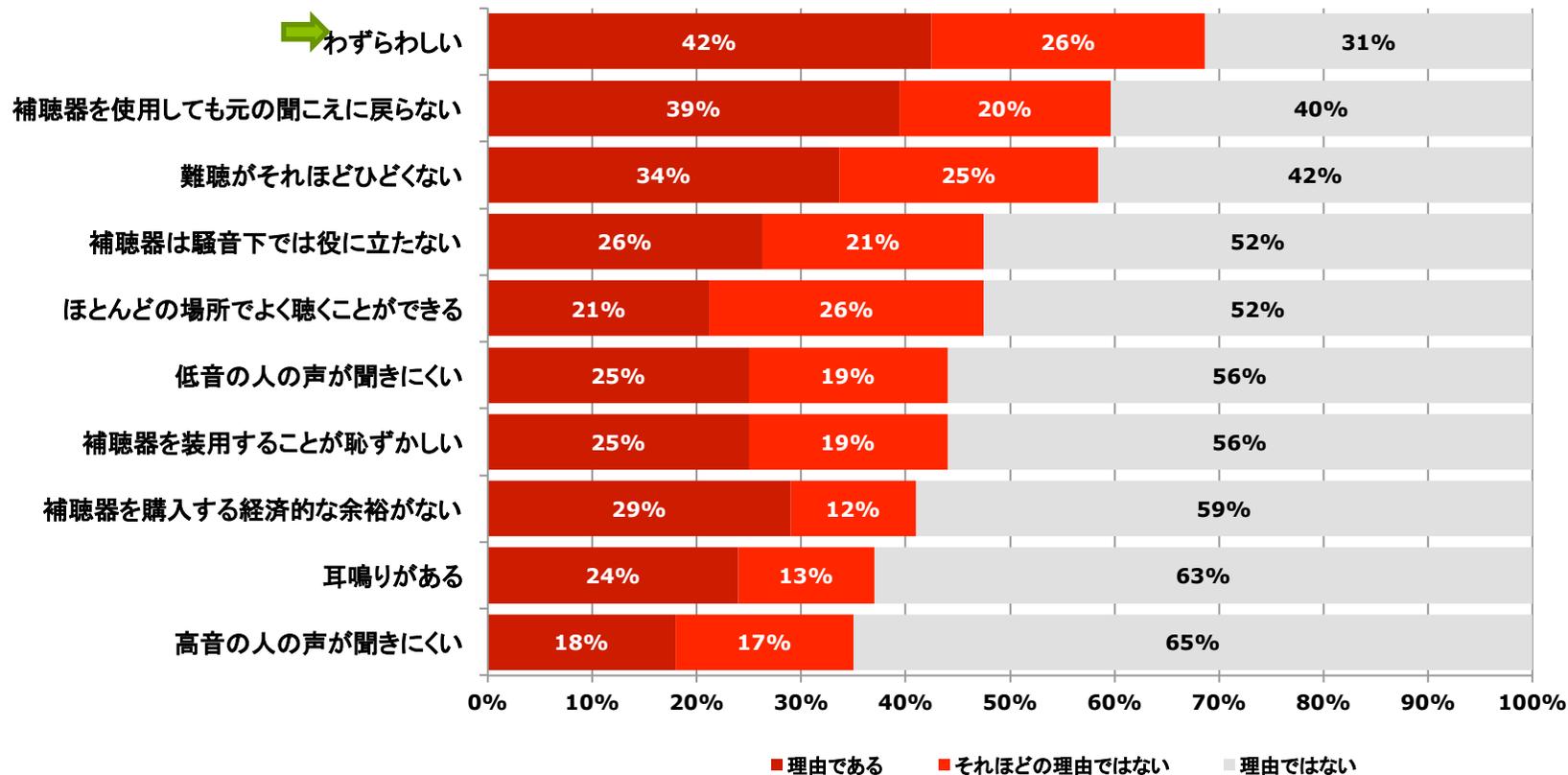
補聴器を所有しない理由と補聴器をわずらわしいと思う理由

難聴度の高い上位50%の補聴器非所有者グループと補聴器所有者グループの個々の難聴の程度がほぼ同じなので、上位50%のグループから補聴器を使用しない理由を分析した

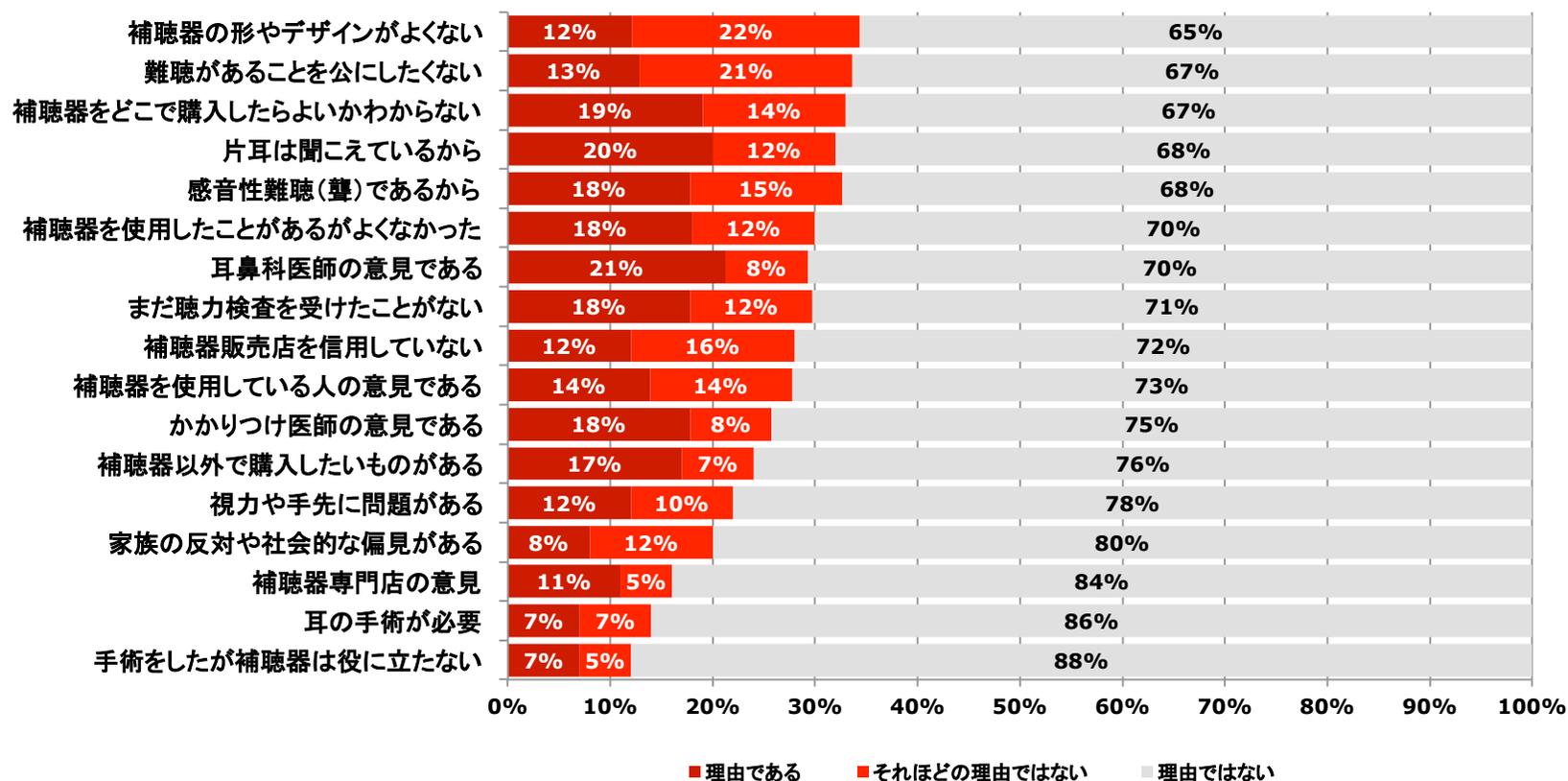
難聴の程度の特徴：補聴器所有者と補聴器非所有者の比較

	補聴器所有者 (基数:405人)	補聴器非所有者 下位50%の難聴者 (基数:368人)	補聴器非所有者 上位50%の難聴者 (基数:208人)
聴覚障害			
片耳難聴	17%	49%	25%
両耳難聴	83%	51%	75%
感音性難聴		それぞれの難聴の程度が近似している	
軽度	18%	55%	32%
中度	54%	43%	50%
高度	23%	1%	17%
重度	5%	1%	2%

補聴器を使わない理由のトップ10 (1)



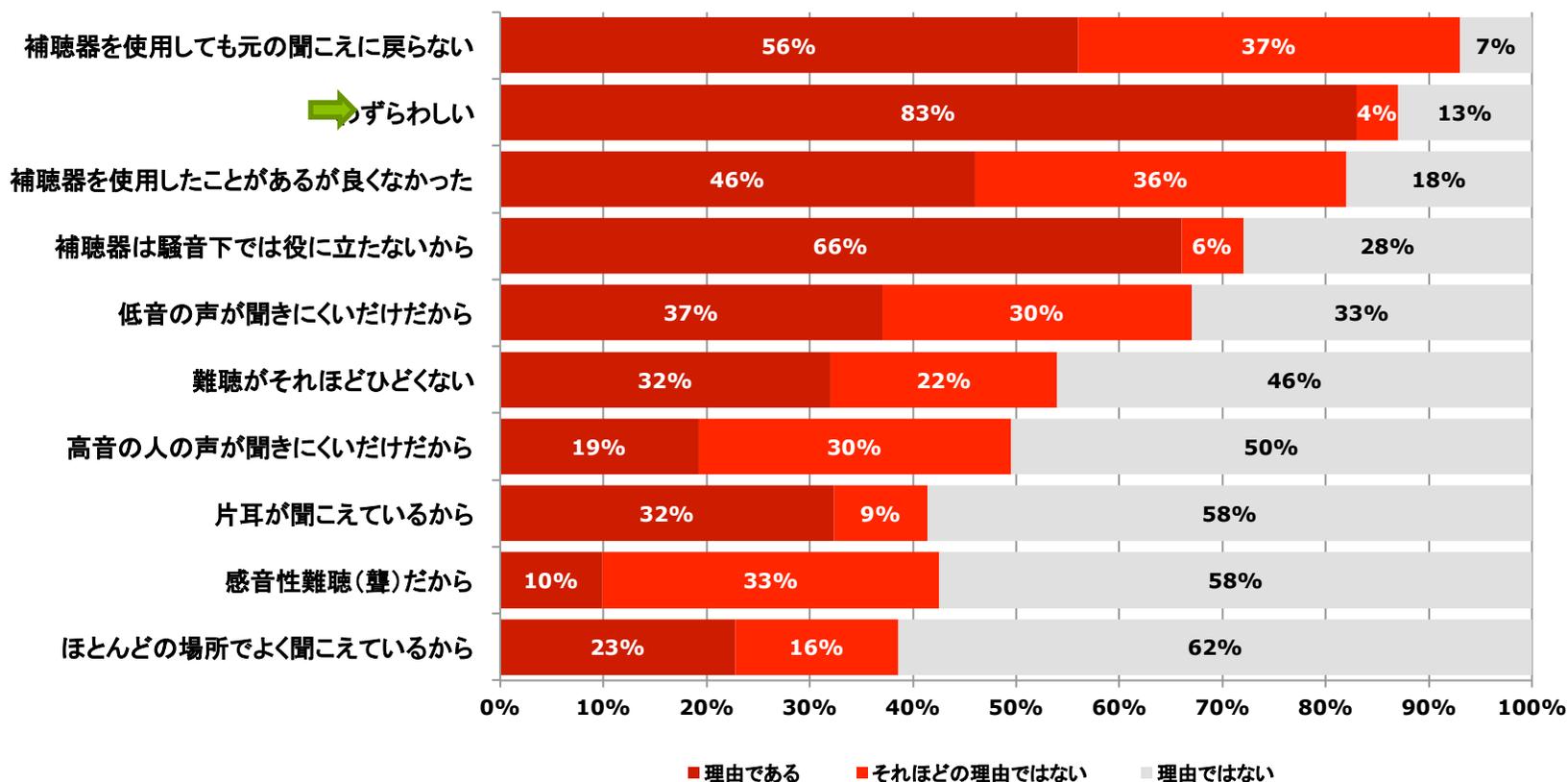
補聴器を使わないトップ10以下の理由(2)



基数: 上位50%HLの補聴器非所有者=208人



補聴器を所有していても使わないトップ10の理由

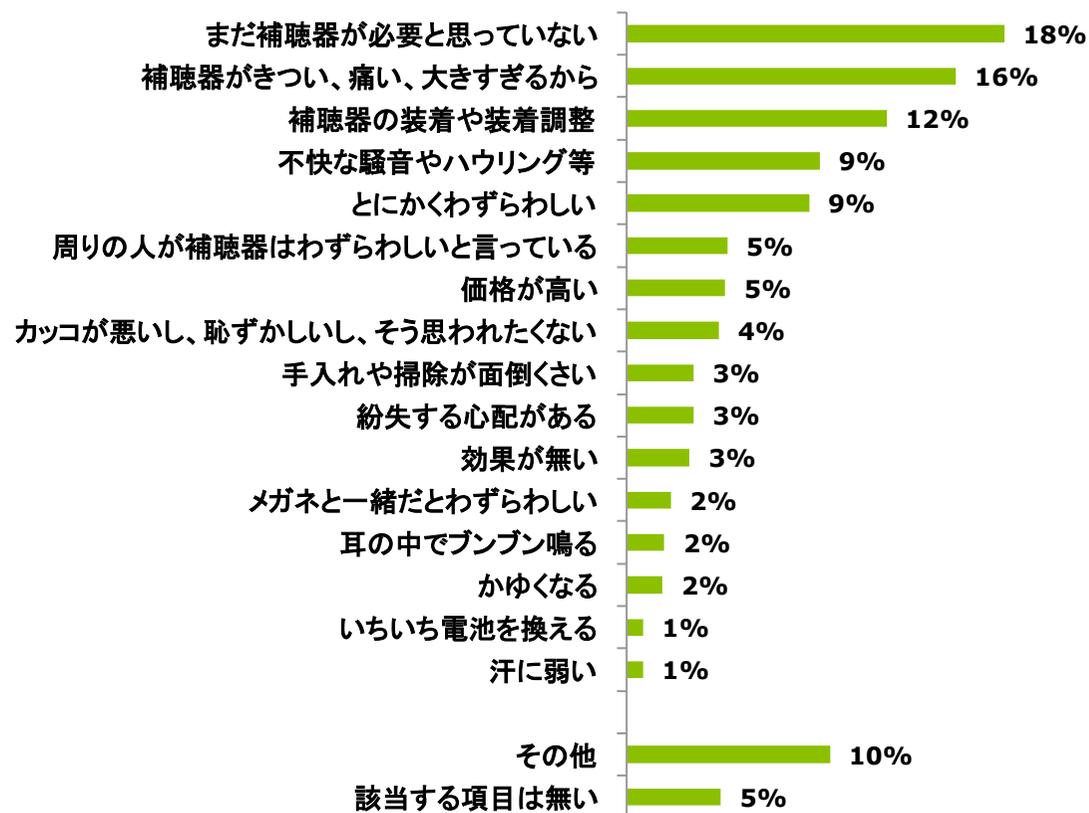


補聴器を所有しているが使用していない: 34人



「わずらわしい」の意味

あなたは補聴器を使用しない理由は「わずらわしい」と回答しました。その理由を詳しく述べてください

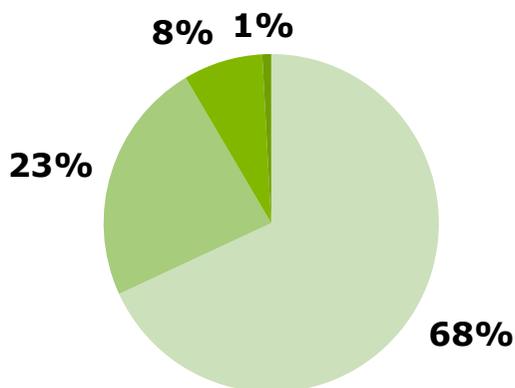


基数=361人

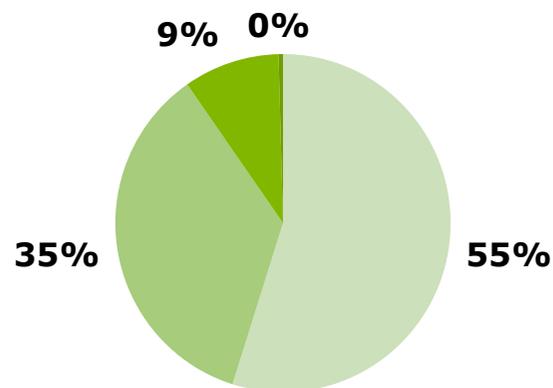
補聴器の装用から見た難聴に対する社会の認識

補聴器所有者の**91%**は、補聴器を使用していることをからかわれたり、仲間はずれにされたことが無いと考えている。むしろ、補聴器非所有者にその傾向があるようである。

補聴器所有者：
あなたは補聴器を使用していることをからかわれたり、仲間はずれにされたことがありますか？



補聴器非所有者：
あなたは難聴者であることをからかわれたり、仲間はずれにされたことがありますか？



- まったくない
- ほとんどない
- 時々ある
- 常にある

基数:416人

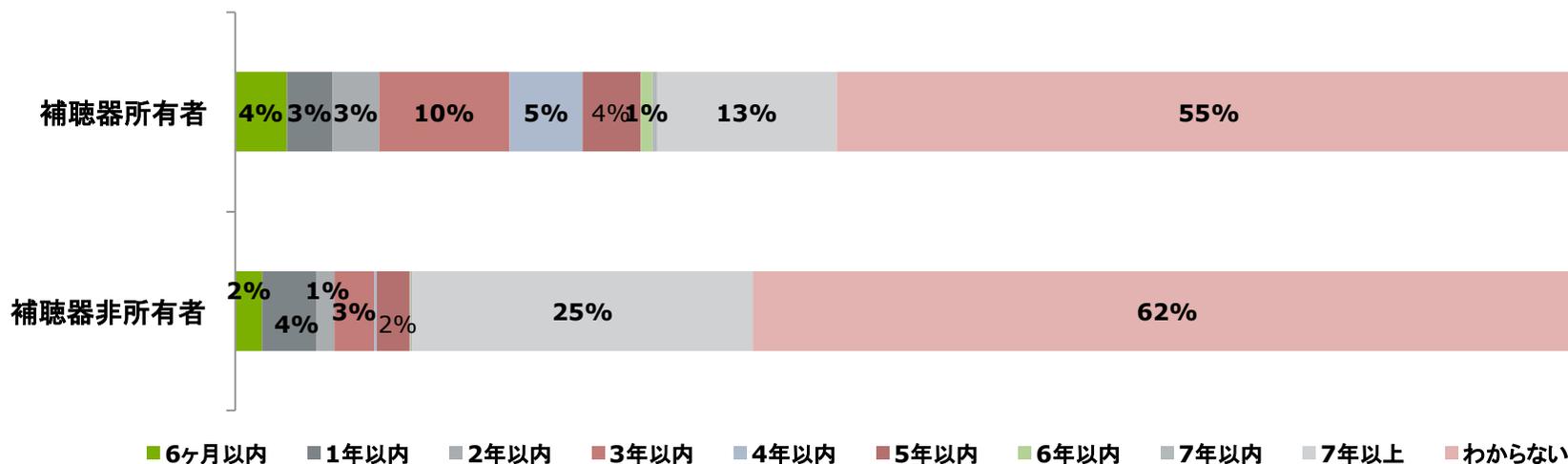
基数:上位50%の補聴器非所有者=208人



補聴器購入の意志と購入の動機

1年以内に補聴器購入を考えている補聴器非所有者は6% (2012:4%)、買い替え購入者は全体として非所有者より購入意欲は高い

難聴者の補聴器購入予定%



補聴器非所有者=890人
補聴器所有者=416人

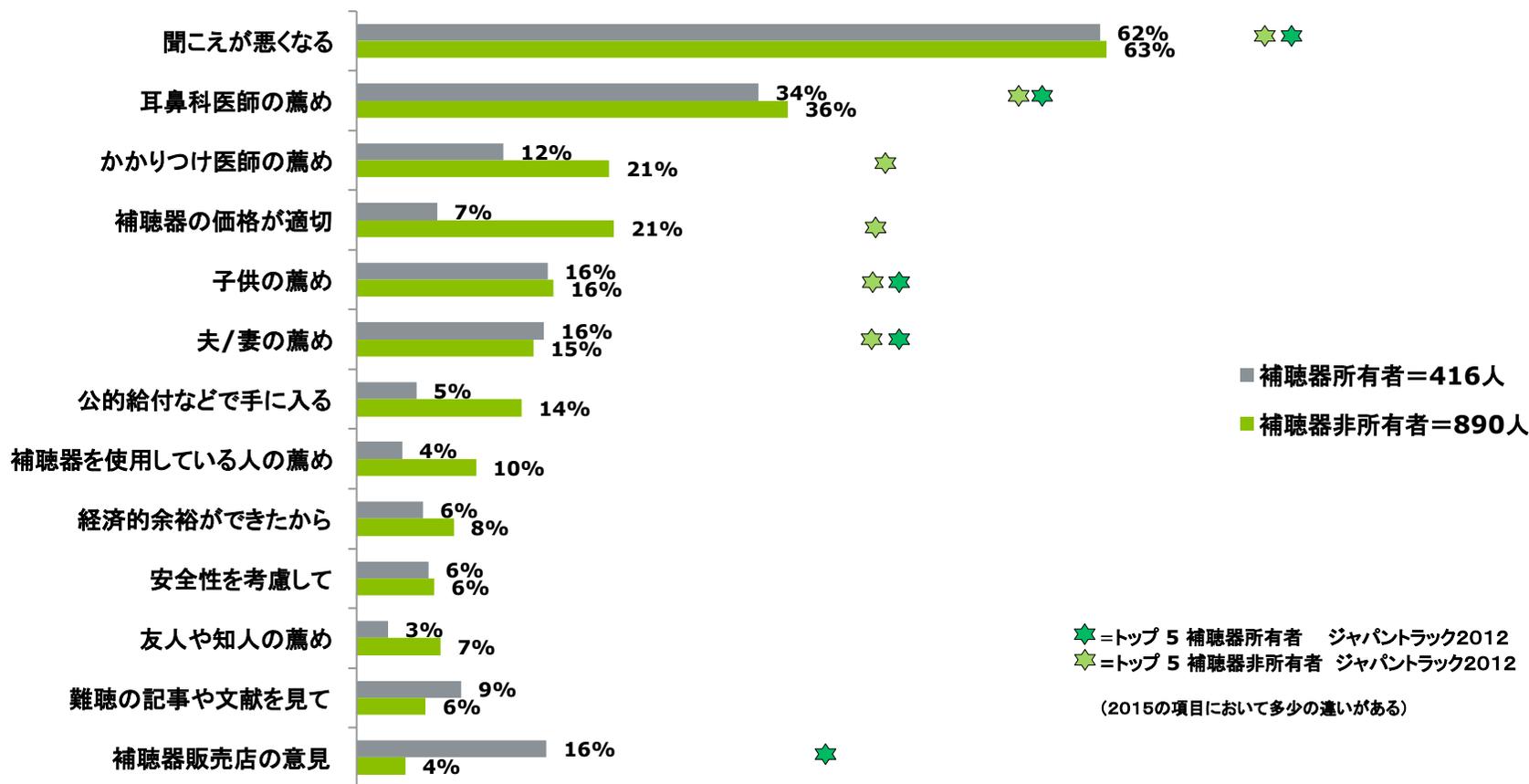


<1>

補聴器所有者・非所有者が補聴器使用を考え始める強い動機は、**1)聞こえが悪くなる、2)耳鼻科医師やかかりつけ医師からの推薦、3)価格(特に補聴器非所有者)、**である

補聴器非所有者: 補聴器を購入することを想像して下さい。
その時の購入の動機は何でしょうか？

補聴器所有者: あなたが初めて補聴器を購入した時のことを思い出して下さい。購入の動機は何でしたか？

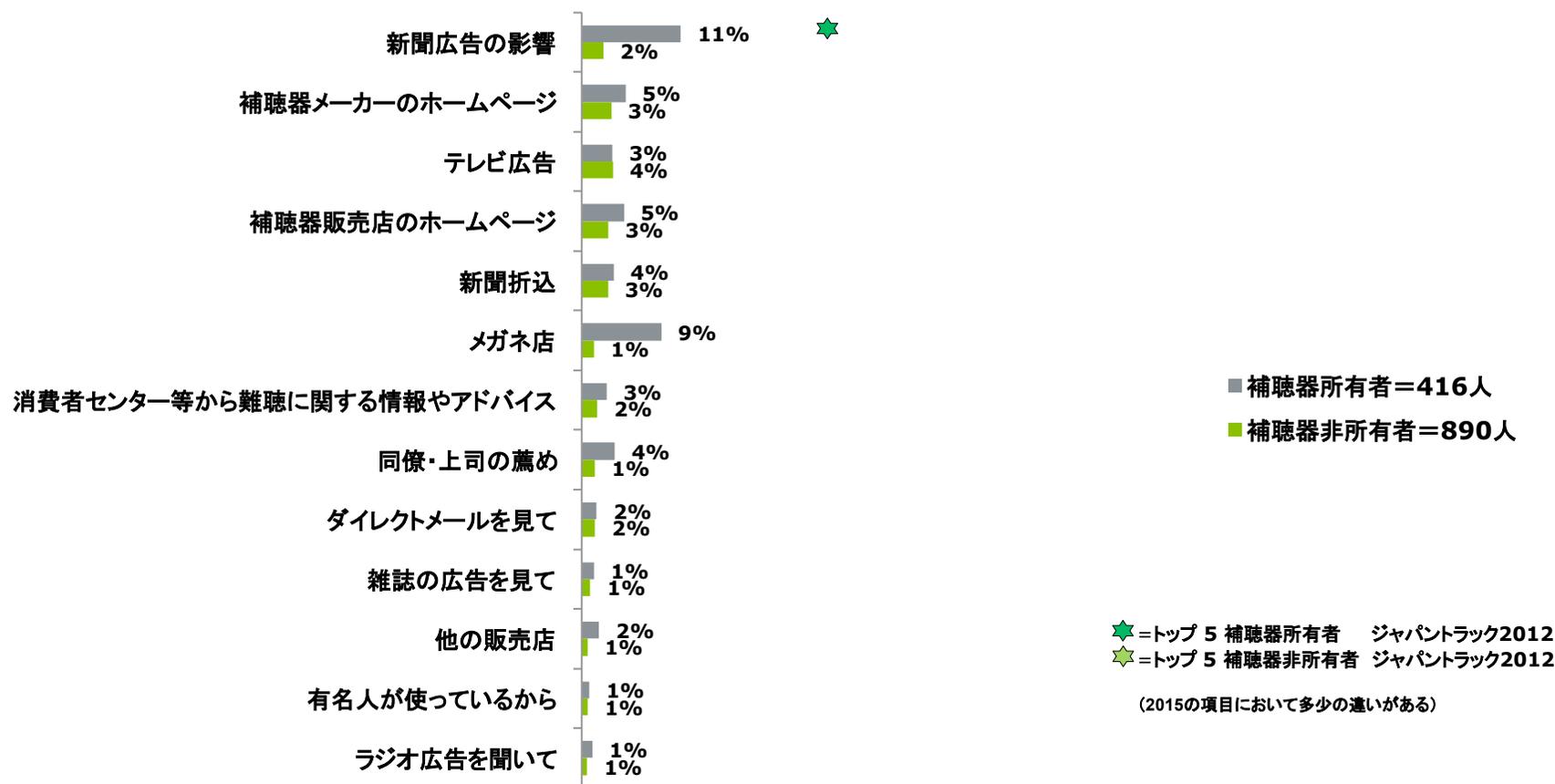


<2>

補聴器所有者・非所有者が補聴器使用を考え始める強い動機は、**1)聞こえが悪くなる、2)耳鼻科医師やかかりつけ医師からの推薦、3)価格(特に補聴器非所有者)である**

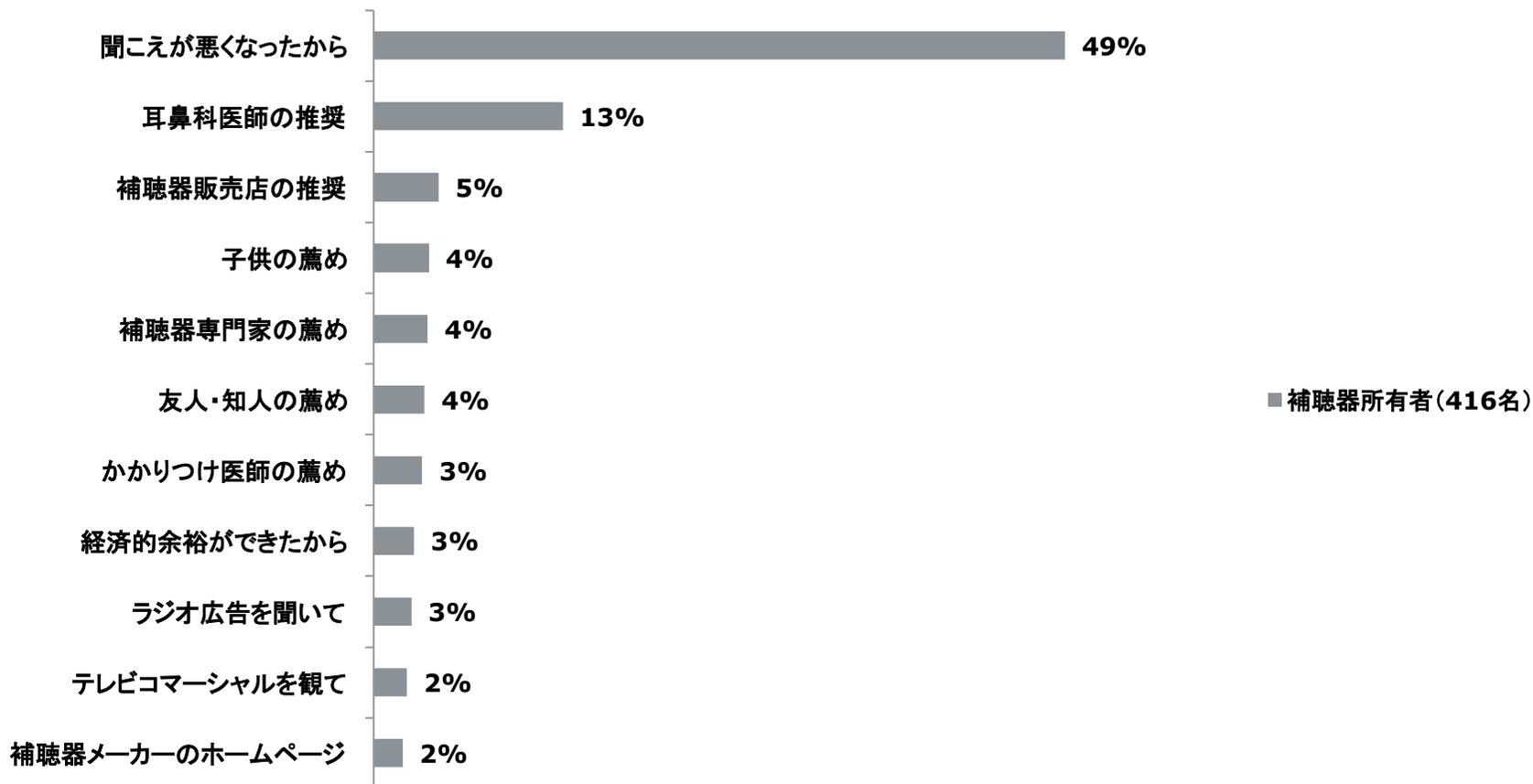
補聴器非所有者: 補聴器を購入することを想像して下さい。
その時の購入の動機は何でしょうか？

補聴器所有者: あなたが初めて補聴器を購入した時のことを
思い出して下さい。購入の動機は何でしたか？



補聴器を購入する最も強い動機は聞こえがより悪くなった時

補聴器購入を最終的に決断した動機は何ですか？
以下の中から1つだけ選んでください？



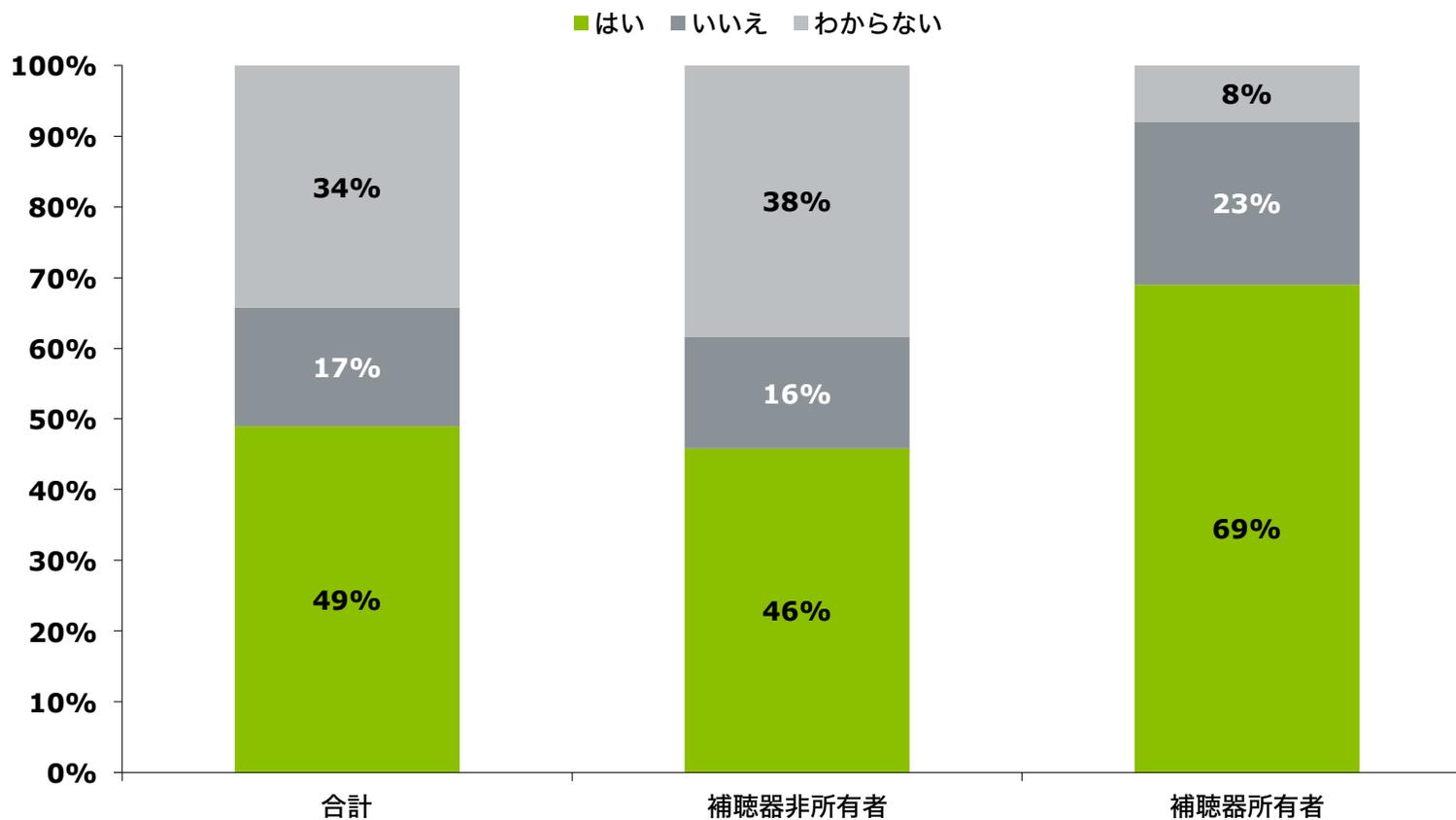


5. 日本市場に特化した質問項目



難聴者の半数が、自分の生活圏内のどこに補聴器販売店があるか知っている(2012年の調査とほぼ同じ)

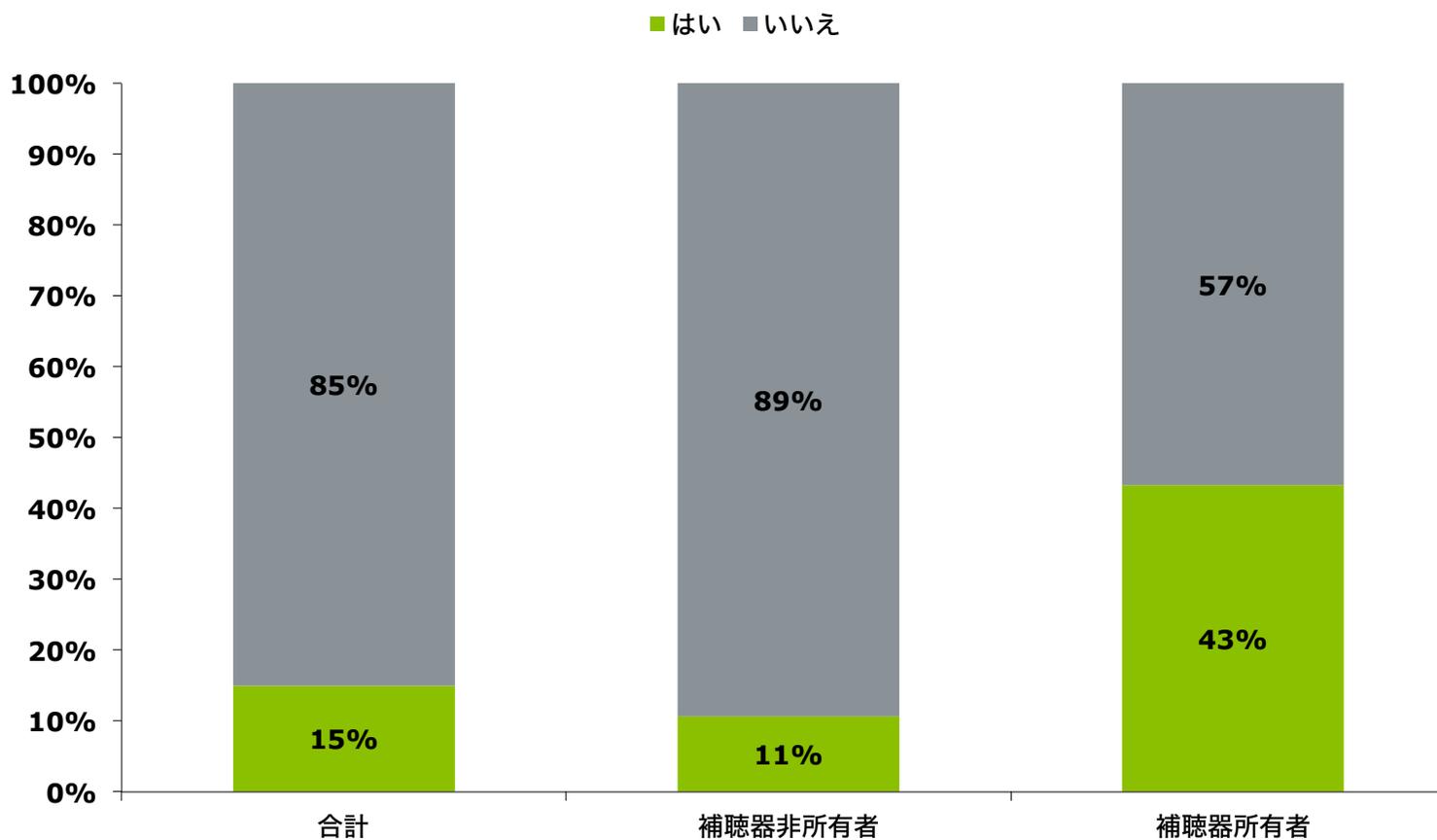
あなたのお住まいの近くに補聴器販売店はありますか？



非加重サンプル数 = 1,306人

15% (2012: 16%) の難聴者が「認定補聴器技能者」という名称を知っている

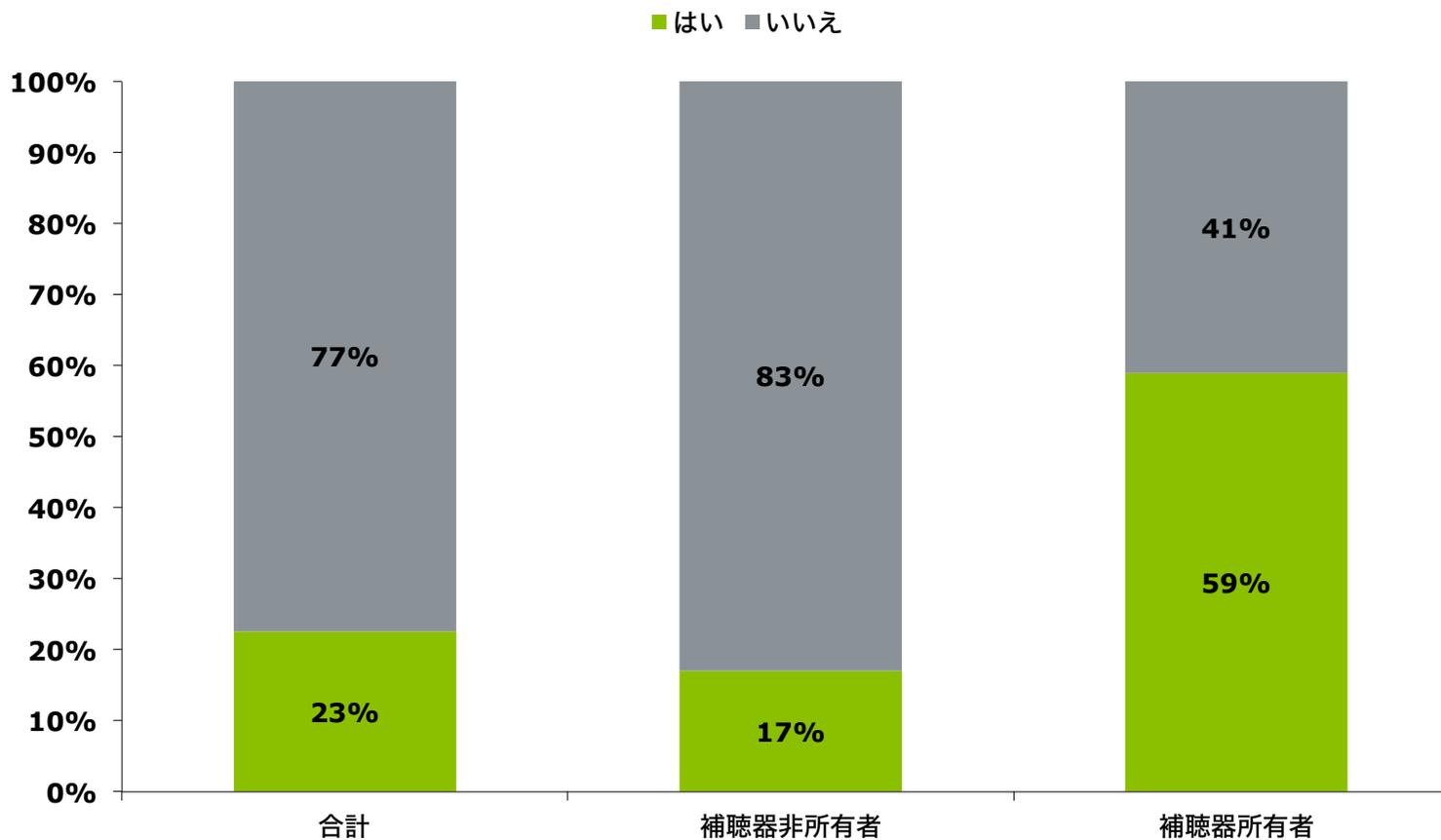
あなたは「認定補聴器技能者」という名称をご存じですか？



非加重サンプル数 = 1,306人

23% (2012:24%) の難聴者が「認定補聴器専門店」という名称を知っている

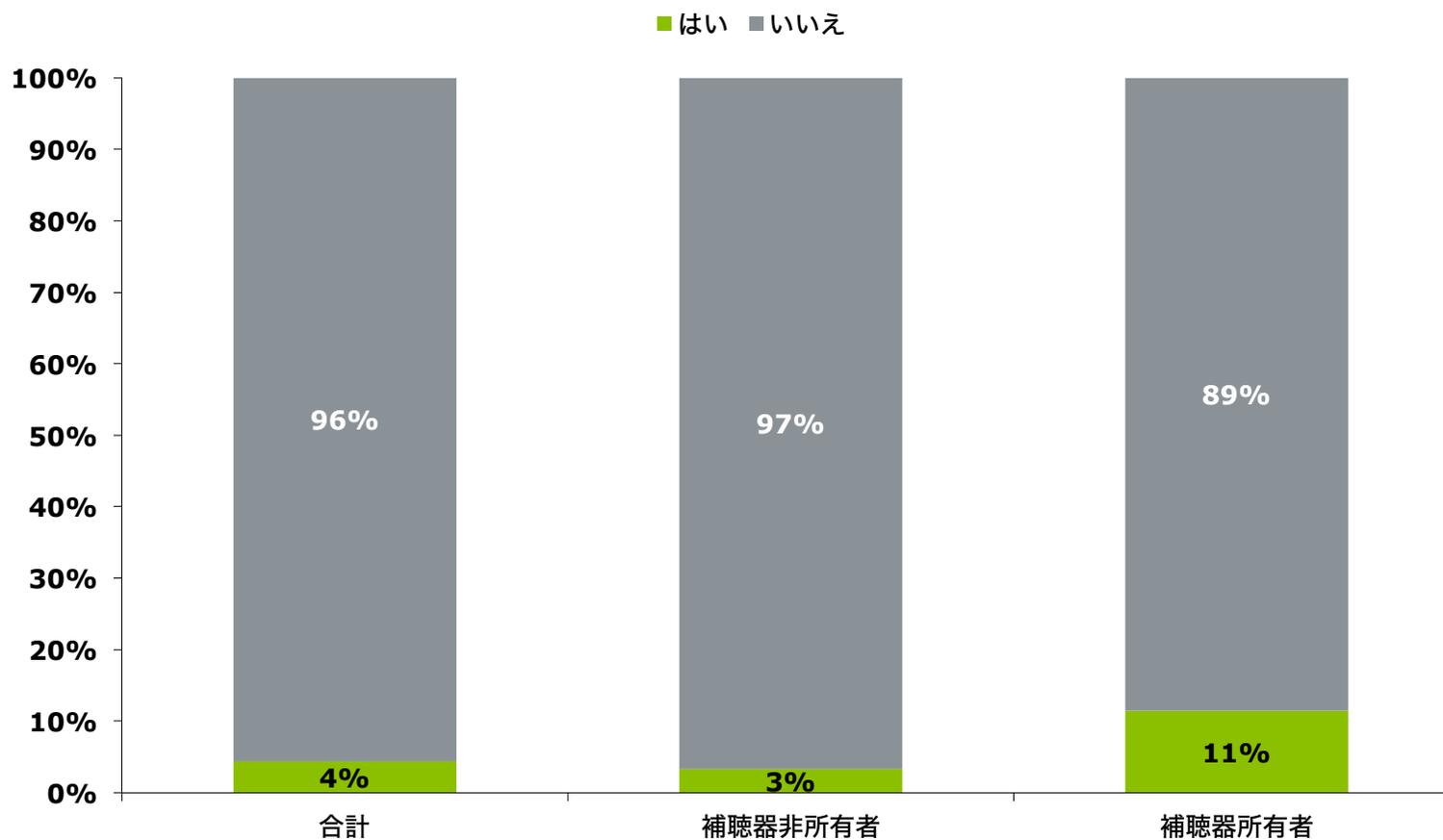
あなたは「認定補聴器専門店」という名称をご存じですか？



非加重サンプル数 = 1,306人

3% (2012:3%) の難聴者が「テクノエイド協会」という名称を知っている

あなたは「テクノエイド協会」という名称をご存じですか？



非加重サンプル数 = 1,306



Stefan Ruf lic. rer. pol.

Anovum GmbH
Sumatrastrasse 25
CH-8006 Zürich

Telefon +41 (0)44 576 76 77
Mobil +41 (0)78 717 88 01
Email stefan.ruf@anovum.com

www.anovum.com



Christian Egger lic. phil.

Anovum GmbH
Sumatrastrasse 25
CH-8006 Zürich

Telefon +41 (0)44 576 76 78
Mobil +41 (0)76 318 57 51
E-Mail christian.egger@anovum.com

www.anovum.com



EHIMA

Soeren Hougaard

EHIMA secretary general

Phone: (+45) 4045 7135

Email: sh@ehima.com





付属データ



人口動態 (1): 補聴器使用率と人口

表: 各表は合計が100%になる*

	総数	聴取困難	補聴器使用率 % (基数=聴覚障害者)	健聴者	難聴であるが補聴器 は所有していない	補聴器所有者
性別						
男	6946	10.9%	13.8%	48.7%	46.8%	48.1%
女	7370	11.6%	13.2%	51.3%	53.2%	51.9%
年齢						
1歳 - 14歳	1876	1.5%	46.8%	14.5%	1.1%	6.1%
15歳 - 24歳	1386	2.9%	23.1%	10.6%	2.2%	4.3%
25歳 - 34歳	1581	2.5%	15.4%	12.1%	2.4%	2.8%
35歳 - 44歳	2004	3.4%	7.3%	15.2%	4.5%	2.3%
45歳 - 54歳	1836	7.2%	3.0%	13.4%	9.2%	1.8%
55歳 - 64歳	1826	10.3%	6.4%	12.9%	12.6%	5.6%
65歳 - 74歳	1961	18.0%	9.2%	12.7%	22.9%	14.9%
74歳以上	1846	41.6%	17.6%	8.5%	45.2%	62.2%
家族構成						
一人で暮らしている	1093	18.1%	12.3%	7.1%	12.4%	11.2%
夫婦のみで暮らしている	2807	15.6%	11.7%	18.7%	27.6%	23.6%
夫婦と子供で暮らしている	6518	5.7%	9.1%	48.4%	24.1%	15.4%
母親または父親と子供とで暮らしている	2221	13.8%	21.8%	15.1%	17.1%	30.5%
老人ホーム、介護施設、病院で暮らしている	182	45.4%	14.4%	0.8%	5.0%	5.5%
その他	1495	14.9%	13.5%	10.0%	13.8%	13.8%

人口動態 (2): 補聴器使用率と人口

Profiles: Categories add to 100%*

身分	総数	聴取困難	補聴器使用率 % (基数=聴覚障害者)	健聴者	難聴であるが補聴器 は所有していない	補聴器所有者
身分						
世帯主	5218	16.3%	12.7%	34.6%	56.0%	52.6%
世帯主の配偶者	3499	10.0%	12.4%	25.0%	23.0%	21.0%
世帯主の子供	4385	1.8%	11.3%	34.2%	5.2%	4.3%
世帯主の親	611	35.0%	18.3%	3.2%	13.2%	19.0%
その他	423	9.8%	15.7%	3.0%	2.6%	3.2%
仕事						
常勤者	4578	6.3%	8.9%	39.8%	19.1%	12.7%
パートタイマー	1789	7.3%	4.7%	15.4%	9.1%	3.0%
無職	2560	14.5%	16.1%	20.3%	22.5%	29.4%
年金受給者	2051	30.9%	14.3%	13.2%	39.2%	44.7%
早期退職者	74	19.2%	17.1%	0.6%	0.9%	1.2%
定年退職者	500	25.3%	11.9%	3.5%	8.1%	7.4%
学生	803	2.6%	15.1%	7.3%	1.3%	1.6%
最終学歴						
中学校卒業	1013	26.4%	15.8%	6.9%	16.3%	20.8%
高等学校卒業	4220	13.6%	10.5%	33.9%	37.1%	29.8%
専門学校卒業	1080	9.2%	11.7%	9.1%	6.3%	5.7%
短期大学卒業	1001	9.3%	7.2%	8.4%	6.3%	3.3%
大学卒業	3557	9.0%	14.2%	30.1%	19.9%	22.5%
大学院卒業	336	6.3%	4.4%	2.9%	1.5%	0.5%
その他	342	27.2%	19.0%	2.3%	5.4%	8.7%
回答を希望しない	805	14.6%	15.3%	6.4%	7.2%	8.8%